

# **日露経済協力・人的交流に資する 人材育成プラットフォーム(HaRP)**

**Human Resource Development Platform for Japan-  
Russia Economic Cooperation and Personnel Exchange**

**Платформа подготовки кадров для японо-  
российского экономического сотрудничества и  
гуманитарных обменов**

**ANNUAL REPORT 2018  
(APRIL 2018 – MARCH 2019)**

## ご挨拶

本事業「日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム（HaRP）」は、平成 29 年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプ B：プラットフォーム構築プログラム）」に、北海道大学と新潟大学が共同で申請、採択されたことを機にスタートしました。

平成 29 年度は事務局体制の整備及び情報収集を行い、平成 30 年度は本格始動の年として、平成 30 年 5 月には「第 1 回日露大学協会総会（第 7 回日露学長会議）」を、平成 31 年 2 月には「第 1 回日露産官学連携実務者会議」を開催することができました。これらの大きな会議の開催を含め、HaRP の取組は、日露交流を行う皆様のご支援・ご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

本事業は、高等教育機関における日露交流の推進、日露の人材育成を目指すプログラムですが、日露の高等教育機関のみならず、日露交流に取り組む企業、自治体、団体等の皆様のご協力を得て、日露交流を加速させるとともに、この事業の持続的成長を目指して取り組んでまいります。

今後とも事業についてのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

北海道大学 理事・副学長 笠原 正典

# 目 次

1. 年間の主な活動 .....	1
2. 日露大学協会	
・ 概要 .....	2
・ 日露大学協会加盟校 .....	2
・ 第1回日露大学協会総会 .....	4
3. 日露人材交流委員会	
・ 概要 .....	8
・ 日露人材交流委員会委員 .....	8
・ 日露人材交流委員会に関する打ち合わせ .....	8
・ 第1回日露人材交流委員会幹事会 .....	10
4. 専門セクション及び専門セクション運営委員会	
・ 概要 .....	11
・ 専門セクション参画者所属大学 .....	11
・ 専門セクション分野別活動一覧表 .....	13
・ 専門セクションに係る活動報告①－新潟大学における「医療健康」セクションの取組－ .....	27
・ 専門セクションに係る活動報告②－東海大学における「ウラジオストク航海」－ .....	29
・ 専門セクションに係る活動報告③－北海道大学における「都市づくり」セクションの取組－ .....	31
・ 専門セクションに係る活動報告④－専門セクション意見交換会－ .....	34
・ 専門セクションに係る活動報告⑤－クラスノヤルスクでの現地調査－ .....	36
5. 日露学生連盟	
・ 概要 .....	38
・ 日露学生フォーラム .....	38
6. 日露産官学連携実務者会議 .....	43
 【付録1】 日露学生フォーラム成果発表資料 .....	47
【付録2】 日露学生フォーラムの報告書 (Report on Japan-Russia Student Forum 2018) .....	52
【付録3】 大学の世界展開力強化事業 (ロシア) 採択校 情報共有シート .....	91

## 1. 年間の主な活動

2018 年 4 月	ロシア学長連盟会議の開催（於：サンクトペテルブルグ） （北海道大学名和総長，東海大学山田学長の出席） 「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」の設立
5 月	第 1 回日露大学協会総会及び日露学生フォーラムの開催（主催：北海道大学） ・「人材交流委員会」, 「学生連盟」, 「専門セクション運営委員会及び専門セクション」の設立
7 月～9 月	日本の大学における人材交流委員会参画者の照会・決定 専門セクション参画者の照会・決定
8 月	太平洋国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：北海道大学）
9 月	太平洋国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：太平洋国立大学）
10 月	モスクワ国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：モスクワ国立大学） 日露大学協会日本側運営委員会開催（メール会議） （福島県立医科大学及び東京農業大学の協会加盟承認）
10 月～12 月	日本の大学における専門セクションの活動の収集・情報共有
11 月	日露医学医療シンポジウム 2018 の開催（主催：新潟大学）
12 月	モスクワ国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：モスクワ国立大学） 太平洋国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：太平洋国立大学）
2019 年 2 月	日露大学協会ホームページの開設 クラスノヤルスクでの現地調査 第 1 回日露産官学連携実務者会議の開催 第 1 回人材交流委員会幹事会の開催 「都市づくり」セクション及び「先端技術協力」セクション意見交換会の開催 学生連盟の打ち合わせ実施 ロシアの大学に対する専門セクションに係る調査の実施
3 月	モスクワ国立大学と北海道大学との打ち合わせ（於：モスクワ国立大学）

※HaRP の幹事校である北海道大学及び新潟大学の活動を中心に掲載しています。

その他、「日本留学海外拠点連携推進事業」（北海道大学，新潟大学，筑波大学共同採択）の一環として，以下の都市で留学フェアを開催しました。

2018 年 10 月 モスクワ

2019 年 2 月 クラスノヤルスク，ハバロフスク

2019 年 3 月 カザン



## 2. 日露大学協会

日露大学協会は、日本とロシアの高等教育機関における大学間交流の推進、学生交流の増加などを目的とした、日露の大学による組織です。

2009 年より、日露両国の大学間の交流推進を目的とした日露学長会議が開催されておりましたが、2016 年 10 月の同会議において、日露大学協会設立に向けて日露で共同することが、コミュニケに明記されました。その後、2016 年 12 月に開催された日露首脳会談にあわせ、両首脳立ち合いの下、日露大学協会に係る合意文書が交換され、協会の設置に至りました。



日露学長会議のシンボルマーク

### 日露大学協会加盟校

日露大学協会設立合意時には日露それぞれ 21 大学（計 42 大学）の参画でしたが、2018 年 5 月の日露大学協会開催時には、次ページの「日露大学協会 加盟校一覧」のとおり、日露各 25 大学（計 50 大学）へと増加しました。

また、日本の大学については、2018 年 10 月に開催した日露大学協会日本側運営委員会において、福島県立医科大学と東京農業大学の参画が承認されています。

# 日露大学協会 加盟校一覧

2018年5月現在

	日本側加盟大学	ロシア側加盟大学
1	北海道大学	モスクワ国立大学
2	東北大学	アルタイ国立大学
3	筑波大学	ベルゴロド国立工科大学
4	千葉大学	ヴォロネジ国立大学
5	東京外国語大学	極東連邦大学
6	東京工業大学	ロシア外務省外交アカデミー
7	新潟大学	イジェフスク国立工科大学
8	信州大学	イルクーツク国立大学
9	金沢大学	カバルダ・バルカル国立大学
10	名古屋大学	カザン連邦大学
11	神戸大学	クバン国立工科大学
12	広島大学	モスクワ国立国際関係大学
13	山口大学	ニジニ・ノヴゴロド国立大学
14	長崎大学	ノボシビルスク国立大学
15	大分大学	モスクワ国立第一医科大学
16	神戸市外国語大学	ロシア国立石油・ガス大学
17	白鷗大学	ロシア新大学
18	東海大学	リャザン国立大学
19	上智大学	サラトフ国立大学
20	創価大学	サハリン国立大学
21	早稲田大学	北部（北極圏）連邦大学
22	南山大学	太平洋国立医科大学
23	京都外国語大学	太平洋国立大学
24	近畿大学	南ウラル大学
25	神戸学院大学	南部連邦大学

## 第1回日露大学協会総会

日露大学協会の設立を受け、2018年5月19日（土）及び20日（日）に第1回日露大学協会総会（第7回日露学長会議）が開催され、また、総会の開催にあわせて、5月18日（金）及び5月19日（土）に日露学生フォーラムが開催されました。

総会の最後には、分科会における議論や日露学生フォーラムの話し合いの成果を基に共同宣言が行われ、「人材交流委員会」「学生連盟」「専門セクション運営委員会及び専門セクション」を設立すること、若手研究者をはじめとする学術交流を進め、異分野融合や産学連携を進めること、そして次回（第2回日露大学協会総会（第8回日露学長会議））は2019年にモスクワ大学のホストで開催されることが確認され、北海道大学の名和総長とモスクワ国立大学のサドーヴニチ学長が署名しました。

なお、日露大学協会総会は、今後、約1年半ごとに日露交互に開催される予定です。

### 総会開催概要

【日時】2018年5月19日（土）～20日（日）

【スケジュール】5月19日（土）本会議及び歓迎レセプション

5月20日（日）本会議

【場所】北海道大学学術交流会館（札幌）、  
京王プラザホテル札幌

【テーマ】

日露経済協力・人的交流に資する人材育成の推進

【参加機関】

日露大学協会加盟校、日露の大学間  
交流に関心のある大学、文部科学省、  
在札幌ロシア連邦総領事館、協賛企  
業等（後述の「参加機関一覧」参照）

【参加者数】

161名

【言語】

日本語及びロシア語（同時通訳）



サドーヴニチモスクワ国立大学学長の  
基調講演



山田東海大学学長の基調講演

## 学生フォーラム開催概要

38 ページ参照

## 詳細日程

テーマ「日露経済協力・人的交流に資する人材育成の推進」

5月18日（金）	日露学生フォーラム（学術交流会館）	
8:50-12:00	集合，エクスカーション	
12:00-13:00	ランチ	
13:00-13:15	オリエンテーション	
13:25-16:40	グループワーク	
16:40-17:50	グループ毎の発表，話し合いまとめ	
18:00-19:00	成果発表準備等	
19:30-21:30	レセプション（札幌サンプラザ）	
5月19日（土）	日露大学協会総会（学術交流会館）	日露学生フォーラム（学術交流会館）
9:00-14:00	－	発表準備他
14:10-14:30	※日露学生フォーラム学生代表の成果発表（英語）	
14:30-14:45	※講評：林文部科学大臣/ファブリーチニコフ在札幌ロシア連邦総領事	
14:45-15:05	※写真撮影	
15:15-15:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>※開会挨拶</li> <li>※来賓挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>林 芳正 文部科学大臣</li> <li>堀井 学 外務大臣政務官</li> <li>ファブリーチニコフ 在札幌ロシア連邦総領事</li> <li>高橋 はるみ 北海道知事</li> <li>サドーヴニチィ モスクワ大学学長</li> </ul> </li> </ul>	今後の学生交流に向けた話し合い
16:00-16:30	※名誉学位授与式 ※関係者以外は休憩	
16:30-17:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>討議テーマの紹介 <ol style="list-style-type: none"> <li>日露高等教育機関間の人的交流の拡充－人材交流委員会の設置に向けて－</li> <li>日露経済協力に資する専門家の育成－専門セクション運営委員会の設置に向けて－</li> </ol> </li> </ul>	－

17:30-18:30	人材交流委員会打ち合わせ 専門セクション運営委員会打ち合わせ 日本文化体験	
19:00-21:00	レセプション	
<b>5月20日（日）</b>	<b>日露大学協会総会（京王プラザホテル札幌）</b>	
8:45- 9:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>※基調講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>モスクワ国立大学 サドーヴニチィ学長 ーロシア大学協会と日露学長会議ー</li> <li>東海大学 山田学長 ーロシアの大学との学術交流の強化ー</li> </ul> </li> </ul>	
9:45-10:00	※写真撮影	
10:00-10:15	コーヒープレイク	
10:15-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>分科会 <ol style="list-style-type: none"> <li>人材交流</li> <li>医療健康</li> <li>地域開発</li> </ol> </li> </ul>	
11:30-11:45	※サイニングセレモニー ※分科会座長は、分科会まとめ、発表準備	
11:45-12:20	※分科会について発表、議論統括	
12:20-12:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>※共同宣言採択 <ul style="list-style-type: none"> <li>日露人材交流委員会及び日露学生アソシエーションの設立</li> <li>専門セクション運営委員会の設立</li> </ul> </li> </ul>	
12:35-12:45	※閉会挨拶	
13:00-14:00	昼食会	

※マスコミオープン



総会参加者による集合写真



## 参加機関一覧

- 日本の大学（協会加盟校）

東北大学，筑波大学，東京外国語大学，東京工業大学，新潟大学，金沢大学，信州大学，神戸大学，広島大学，長崎大学，神戸市外国語大学，上智大学，東海大学，早稲田大学，創価大学，南山大学，京都外国語大学，近畿大学，神戸学院大学，北海道大学

- ロシアの大学（協会加盟校）

モスクワ国立大学，アルタイ国立大学，極東連邦大学，イルクーツク国立大学，カザン連邦大学，ノボシビルスク国立大学，I.M.セチェノフ名称モスクワ国立第一医科大学，リャザン国立大学，サハリン国立大学，北部（北極圏）連邦大学，太平洋国立大学，ウラジーミル国立大学，北部（北極圏）連邦大学

- 日本の大学（その他）

福島県立医科大学，東京農業大学

- その他

文部科学省，外務省，北海道，在札幌ロシア連邦総領事館，国立大学協会，日露青年交流センター，日本政策投資銀行，大地みらい信用金庫

## 後援

文部科学省，外務省，北海道

## 協賛

札幌市，大成建設 株式会社，一般財団法人 大地みらい基金・大地みらい信用金庫，日本政策投資銀行，北海道ガス 株式会社，株式会社 北海道銀行，京都外国語大学



共同宣言書を手にする名和北海道大学総長  
とサドーヴニチモスクワ国立大学学長



総会の様子

### 3. 日露人材交流委員会

日露人材交流委員会は、2018 年 5 月開催の日露大学協会総会で設置が承認された組織で、HaRP 事業における柱となる 2 つの委員会の 1 つです。

人材交流委員会は、①日露大学間の交流の拡大と発展に資する人材育成のための学生交流の支援、②日露大学間の単位互換及び学位認定などの教育制度の調整に係る検討、③日露大学協会と連携した日露大学間の交流の促進を目的とし、目的実現のために、以下の活動に取り組みます。

- ・日露間の学生交流にかかる「優れた取組（Good Practice）」の共有と発信
- ・大学院レベル等での共同教育プログラムの推進
- ・大学間の単位認定及び学位授与制度の比較検討
- ・日露学生連盟に対する支援 など

活動内容について、約 1 年半ごとに開かれる日露大学協会総会で報告を行う予定です。

日露大学協会加盟校全校が委員会に参画する場合、比較的大きな組織となることから、委員会の活動を推進する中心メンバー(幹事委員)による「幹事会」を設けております。幹事会における検討事項及び審議事項については、委員会構成員への報告、意見聴取により情報共有を図り、本委員会を実行力のある組織とします。

#### 日露人材交流委員会委員

日本側の人材交流委員会の参画者は次ページのとおりです。ロシア側からは、モスクワ国立大学、太平洋国立大学などが参画します。

#### 日露人材交流委員会に関する打ち合わせ

2018 年 5 月 19 日（土）、日露大学協会総会での日露人材交流委員会設置に先立ち、打ち合わせを行いました。北海道大学の加藤博文教授及び新潟大学の高橋秀樹副学長が議長となり、日露の学生交流の実務担当者等、23 名（日本側 14 名、ロシア側 9 名）が参加し、人材交流委員会の在り方、検討事項についての意見が交わされました。

日露人材交流委員会委員（日本の大学）

2019年2月現在

NO.	大学名	参画形態	所属	役職	氏名	備考
1	◎ 北海道大学	幹事委員	アイヌ・先住民研究センター	教授	加藤 博文	
2	○ 新潟大学		ー	副学長（国際，環東アジア構想担当）	高橋 秀樹	
3	筑波大学		人文社会系	教授	加藤 百合	
4	金沢大学		理工研究域数物科学系	教授	松本 宏一	
5	長崎大学		医歯薬学総合研究科	教授	高村 昇	
6	東海大学		国際教育センター，工学部	国際教育センター所長，工学部教授	山本 佳男	
7	近畿大学		インターナショナルセンター	准教授	菱川 邦俊	
8	長岡技術科学大学		産学融合トップランナー養成センター	産学融合特任准教授	鳩山 紀一郎	現在，協会加盟校でないが，日露交流の実績のある教員として，参画
9	東北大学	委員	大学院文学研究科	教授（副研究科長・国際交流室長）	阿部 恒之	
10	千葉大学		国際教養学部	教授	高垣 美智子	
11	東京外国語大学		大学院総合国際学研究院	教授	沼野 恭子	
12	東京工業大学		生命理工学院	教授	梶原 将	
13	広島大学		国際室	副学長（国際交流担当）	丸山 恭司	
14	神戸市外国語大学		外国語学部	教授	岡本 崇男	
15	上智大学		ー	グローバル化推進担当副学長	杉村 美紀	
16	創価大学		グローバル・コア・センター	副学長	田中 亮平	
17	南山大学		-	副学長（国際担当）	星野 昌裕	
18	京都外国語大学		国際部	部長	中川 亮平	
19	神戸学院大学		経済学部	教授	岡部 芳彦	
20	福島県立医科大学			副学長	山下 俊一	長崎大学学長特別補佐を兼任
21	東京農業大学		国際協力センター	副センター長	丹羽 光一	

◎委員長，○副委員長



## 第1回日露人材交流委員会幹事会

2019年2月28日（木），日露産官学連携実務者会議の開催に合わせ，第1回日露人材交流委員会幹事会を開催しました。

幹事会には日本側の人材交流委員会幹事委員7名が出席するとともに，幹事以外の委員6名，ロシアからの参加者5名及び関係教員や事務担当者など8名が参加しました。

会議では，最初に次回の日露人材交流委員会に向けての課題について話し合いが行われました。最初の議題として，日露大学間の単位互換についての意見交換に討議しました。具体的には，日本からロシアへの短期派遣における単位取得の意義や，ロシアで受講した科目の日本での単位認定方法について，活発な議論が行われました。ロシア側からもこれまでの事例などを基に意見が示され，日露間の単位互換についての課題共有を行うことができました。次回の大学協会総会時に開催される日露人材交流委員会では，日露大学間での単位互換と共同学位の取り組みの現状を調べたアンケート結果の共有と，それを踏まえた共通の単位互換制度や共同学位に関する取り組みについて報告される予定です。

2つ目の議題として，人文社会フォーラムの開催についての議論が行われました。人文社会フォーラムは，これまで日露学長会議に合わせて開催されてきましたが，日露大学協会の発足を契機にこれまでの伝統を守りつつ，より幅広く参加交流校を増やす目的で人材交流委員会を中心に企画する提案がなされ，参加した委員から了承を得ました。今後は様々な領域での日露間の研究者間交流や学生交流を推進する基盤としての企画推進していく予定です。

また，最後には2019年にモスクワで実施予定の学生フォーラムについて意見交換が行われました。参加人数や参加対象となる学生，開催時期などについて様々な意見が出されました。



## 4. 専門セクション及び専門セクション運営委員会

専門セクション及び専門セクション運営委員会は、日露の経済発展・交流促進に資する人材の育成を目的として、2018 年 5 月開催の日露大学協会総会で設置が承認されました。

専門セクションは、2016 年 5 月の日露首脳会談で提示された「ロシアの生活環境大国、産業・経済の革新のための協力プラン（8 項目の日露経済協力プラン）」に寄与する専門家育成の場です。

日露大学協会総会で、専門セクションの設置について合意した際には、8 項目の日露経済協力プランのうち、7つの分野（医療健康、都市づくり、中小企業交流、エネルギー開発、産業多様化促進、極東の産業振興、先端技術協力）における人材育成の場として、7 セクションの設置を想定しておりました。これらに加えて、将来の日露交流を担う人材がお互いを深く知り、ともに成長するための素養を醸成すること、また、7つの専門セクションの活動を下支えすることを目的として、文系分野の交流、とりわけ「言語・文化・観光」における日露交流促進・人材育成を主眼としたセクションを設置することになりました。

専門セクション運営委員会は、専門セクションの活動の円滑な運営や日露大学協会との連携による日露の教育交流を目的とした、専門セクションのマネジメントの場であり、日露人材交流委員会とともに、HaRP 事業の柱となる委員会です。

### 専門セクション参画者所属大学

2018 年 7 月以降、参画者を募り、日本の大学については次に示す 22 大学に所属する 39 名の教員により組織されております。

## 専門セクションへの参画状況

2018年12月現在

セクション名	参画大学(参画者の所属大学)
①医療健康	新潟大学（リーダー校）、筑波大学、金沢大学、長崎大学、東海大学、福島県立医科大学
②都市づくり	北海道大学(リーダー校)、東京大学、新潟大学、長岡技術科学大学
③中小企業交流	北海道大学、金沢大学、創価大学、大阪大学
④エネルギー開発	北海道大学、東海大学、室蘭工業大学
⑤産業多様化促進	北海道大学、千葉大学、新潟大学、金沢大学、小樽商科大学、大阪大学、東京農業大学
⑥極東の産業振興	
⑦先端技術協力	北海道大学、東京工業大学、金沢大学、東海大学、近畿大学、室蘭工業大学、大阪大学
⑧言語・文化・観光	北海道大学、東北大学、東京外国語大学、新潟大学、神戸市外国語大学、東海大学、上智大学、創価大学、神戸学院大学、小樽商科大学、大阪大学

\*「⑤産業多様化促進」と「⑥極東の産業振興」は、当面、一緒に活動

参画大学(参画者の所属大学)の活動については、次ページの「専門セクション分野別活動一覧表」のとおりです。

専門セクション分野別活動一覧表

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携）	プログラム名（和）	交流形態	実績（学生参加者数など）		活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）
							平成30年度の参加者数		
(1)医療健康	新潟大学		クラスノヤルスク国立医科大学 徳島国立医科大学 北東連邦大学 サントク・ペテルブルグ国立大学 太平洋国立医科大学 カザン連邦大学 モスクワ国立医科大学 モスクワ国立第一医科大学（セチェフ大学）	新潟県 新潟市 公益財団法人 環日本クロール・ハル医療経済研究所 (ERINA) 株式会社 第四銀行 三井物産株式会社（新潟支店） （日露医学医療交流コンソーシアムにいがた）	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成プログラム（Japan-Russian G-MedEx Project、G-MedEx）	学生の相互派遣	累計交流人数 （2014年1月～2018年度累計） 派遣 73名 受入 101名	①大学間協定に基づく学生交流 ・25年以上の日露医学交流実績有り。 ②グローバル医療人材育成を実施（学部生の派遣・受入、単位互換または単位認定、大学院生はダブルディグリープログラムで学位取得、レギュラー・PhDプログラムでは派遣・受入を実施、国費外国人留学生は学位取得コースを設ける） ③国費受入・2人 ④国費受入・2人 ⑤シンポジウム参加者：153人（ロシア人58人を含む）	①大学間協定に基づく学生交流 大学の世界展開力強化事業として(1)(2)を実施。国費外国人留学生プログラムとして(3)を実施。 ②中期医学交流プログラム、医学研究実習プログラムにて学部生を派遣・受入。③レギュラー・PhDプログラム(RPP)で大学院生を派遣並びに受入。ダブルディグリープログラム(DDP)にて大学院生を受入。④国費外国人留学生を受入。 ④地元企業・自治体等6団体と本学の連携 ⑤企業・地方自治体等との連携 ⑥企業・地方自治体等との連携 ⑦企業・地方自治体等との連携 ⑧企業・地方自治体等との連携 ⑨企業・地方自治体等との連携 ⑩企業・地方自治体等との連携 ⑪企業・地方自治体等との連携 ⑫企業・地方自治体等との連携 ⑬企業・地方自治体等との連携 ⑭企業・地方自治体等との連携 ⑮企業・地方自治体等との連携 ⑯企業・地方自治体等との連携 ⑰企業・地方自治体等との連携 ⑱企業・地方自治体等との連携 ⑲企業・地方自治体等との連携 ⑳企業・地方自治体等との連携 ㉑企業・地方自治体等との連携 ㉒企業・地方自治体等との連携 ㉓企業・地方自治体等との連携 ㉔企業・地方自治体等との連携 ㉕企業・地方自治体等との連携 ㉖企業・地方自治体等との連携 ㉗企業・地方自治体等との連携 ㉘企業・地方自治体等との連携 ㉙企業・地方自治体等との連携 ㉚企業・地方自治体等との連携 ㉛企業・地方自治体等との連携 ㉜企業・地方自治体等との連携 ㉝企業・地方自治体等との連携 ㉞企業・地方自治体等との連携 ㉟企業・地方自治体等との連携 ㊱企業・地方自治体等との連携 ㊲企業・地方自治体等との連携 ㊳企業・地方自治体等との連携 ㊴企業・地方自治体等との連携 ㊵企業・地方自治体等との連携 ㊶企業・地方自治体等との連携 ㊷企業・地方自治体等との連携 ㊸企業・地方自治体等との連携 ㊹企業・地方自治体等との連携 ㊺企業・地方自治体等との連携 ㊻企業・地方自治体等との連携 ㊼企業・地方自治体等との連携 ㊽企業・地方自治体等との連携 ㊾企業・地方自治体等との連携 ㊿企業・地方自治体等との連携
	筑波大学		ロシア国立研究医科大学 モスクワ国立大学 カザン連邦大学 ノヴォシビルスク国立医科大学 モスクワ国立医科大学 モスクワ国立第一医科大学（セチェフ大学） ロシア各地の病院	なし	ロシア語話者国語を対象とした産業分野で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム	実習 突然研修	受入 49名 派遣 25名（4名は病院実習、21名は医療視察研修） （2014～2018年度の累計）	①大学間協定に基づく学生交流 ・ロシアの医科大学、医学部を有する大学と医療実務研修などの双方方向の交流を実施している。 【交流先】ロシア国立研究医科大学、モスクワ国立大学、カザン連邦大学、ノヴォシビルスク国立医科大学、モスクワ国立医科大学、モスクワ国立第一医科大学（セチェフ大学） 【派遣】平成26年度～平成30年度までに49名を受入れ、病院での実習を実施。 【派遣】平成27年度～平成30年度までに4名を派遣し、病院での実習を実施。また、平成28年度～平成29年度までに21名を医療視察研修にて派遣し、現地の病院や大学を視察。	①大学間協定に基づく学生交流 本学の目標をつなぐ未来共創リーダークラス・育成プログラム（先制医療プログラム）において、カザン連邦大学、クラスノヤルスク国立医科大学、クラスノヤルスク国立第一医科大学から計10名の学生を約2週間派遣し、ラボローテーションを行った（H30.6月）。また、4名の学生をクラスノヤルスク国立医科大学に派遣し、日露医学シンポジウムにおいてポスター発表を行った（H30.9月）。
(2)国際関係	金沢大学	脳神経科学 予防医科学 がん医科学 循環医科学	カザン連邦大学 クラスノヤルスク国立医科大学 サントク・ペテルブルグ国立第一医科大学 タタールスタン共和国がんセンター	理化学研究所	日露をつなぐ未来共創リーダークラス・育成プログラム（先制医療プログラム）	学生の相互派遣	2018年度 受入 10名（全て学生） 派遣 8名（学生4名、教員4名）	①大学間協定に基づく学生交流 ・カザン連邦大学、交流協定（1998年～） ・クラスノヤルスク国立医科大学、交流協定（2017年～） ・サントク・ペテルブルグ国立第一医科大学、交流協定（2018年～） ・クラスノヤルスク国立医科大学と脳神経科学の分野で研究交流実績がある。平成30年度からは、大学の世界展開力強化事業のもと行う、本学主催先制医療プログラムで、学生の派遣・受入を行う。	①大学間協定に基づく学生交流 本学の目標をつなぐ未来共創リーダークラス・育成プログラム（先制医療プログラム）において、カザン連邦大学、クラスノヤルスク国立医科大学、クラスノヤルスク国立第一医科大学から計10名の学生を約2週間派遣し、ラボローテーションを行った（H30.6月）。また、4名の学生をクラスノヤルスク国立医科大学に派遣し、日露医学シンポジウムにおいてポスター発表を行った（H30.9月）。
	長崎大学	被ばく医療	福島県立医科大学 福島県立医科大学 原研力安全研究協会 アルバイエ株式会社	福島県立医科大学 福島県立医科大学 原研力安全研究協会 アルバイエ株式会社	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダークラス育成事業	学生の相互派遣	毎年度 受入 6～10名 派遣 6～10名 （派遣のうち2名は福島県立医科大学より） 2017～2021年度の累計 受入 40名 派遣 46名	①大学間協定に基づく学生交流 ・北海道立医科大学、学生交流協定（2013年～） ・学生間の相互派遣（短期留学、2017年度4名、単位認定なし。2018年より相互派遣開始。6～10名/年まで増加予定。単位認定あり。2020年よりダブルディグリー開始予定。2021年ダブルディグリー修了者2名/年予定） ②企業・地方自治体等との連携 ・受入留学生は災害・被ばく医療科学共同専攻学生と共に福島県山内村の長崎大学・山内村復興推進拠点、および長崎大学・山内村役場、原研力原子力安全研究協会が共同運営しているKNINセンターにおいてフィールド実習を行う。山内村役場、地元住民の協力のもと災害・被ばく時の原子力災害医療・放射線健康リスクコミュニケーションについてのワークショップに参加する。 ③その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ④その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑤その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑥その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑦その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑧その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑨その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑩その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑪その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑫その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑬その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑭その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑮その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑯その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑰その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑱その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑲その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ⑳その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉑その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉒その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉓その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉔その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉕その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉖その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉗その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉘その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉙その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉚その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉛その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉜その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉝その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉞その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㉟その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊱その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊲その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊳その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊴その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊵その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊶その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊷その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊸その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊹その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊺その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊻その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊼その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊽その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊾その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画 ㊿その他（学生交流・人材育成）に関する実績と計画	







ゼミシヨーン名	日本側大学	交流分野	ロシア領相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)	活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	
								平成30年度の参加者数	平成30年度の活動
長岡技術科学大学		交通計画 都市計画 地盤工学 水工学など	植草国立交通大学		Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)	学生の受入 (短期)	若干名	①大学間協定に基づく学生交流 ・植草国立交通大学と大学間交流協定及び学生交流費書締結(2018年6月～) ・モスクワ国立大学心理学部と長岡技術科学大学環境社会基盤工学専攻で長岡間交流協定締結(2018年9月～) ③その他(学生交流・人材育成に関する業績と計画) 長岡技術科学大学では、海外の大学の第3学年に在籍する学生(5年制大学の場合は第4学年)に対して、本学の研究室が設定するテーマに基づき研修への参加及び文化交流体験等を行うNagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)に参加する学生を募集しています。(※ロシア人学生に特化したプログラムではありません)	
北海道大学		地震火山・防災					教員参加者数 4名 学生参加者数 7名 若手研究員参加者数 3名	* 詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載 ③その他(学生交流・人材育成に関する業績と計画) 2018年8月にロシア・カムチャツカで開催された「第10回日本～カムチャツカ～アラスカ及び地帯の火山地震活動」ワークショップに参加し、研究発表および交流を行った。このワークショップは、北海道大学・ロシア科学アカデミー植草支部火山地震研究所・アラスカ州プエブローノクス校が2年に1度持ち回りで開催している。大学院生を含めた若手研究者の育成に力を入れており、は北大から7名の大学院生と、北大他3名の若手研究者、北大他4名の教員が参加した。研究発表では、ロシア人およびアメリカ人、若手研究者との議論を通じた交流を行うことが出来た。2018年11月1日より、日ロ青年交流事業若手研究者としてロシア植草運邦大学より1名の受け入れを行った。	
北海道大学		北極域の特長的開発 永久凍土生態系						* 詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載	
北海道大学		北極域の特長的開発 永久凍土生態系						* 詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載	
北海道大学		触媒	ロシア科学アカデミー シベリア支那材料・ス コ 触媒研究所(BIC) Nanocomposite Materials Group of companies (NOM)			学生… 受入 3名(ロシア側学生)	受入 ポンスコフ触媒研究所 3名 触媒科学研究所 7名	③その他(学生交流・人材育成に関する業績と計画) 11/19(22日)ロシア・カムチャツカ触媒研究所(BIC)から学生3名を触媒科学研究所(BIC)に招き、学生研究交流会を行った。 交流会スケジュール 11/20(Tue) 12(Tue) 午和講義 11/20(Tue) 午後 学生研究交流会 各研究室から学生1名の発表(7部門各1名+BIC3名、13分発表+分員発表) 11/22(Thu) 午後 北大型学生交流会 11/23(Fri) 今後の交流活動について打ち合わせ その他、ラガ登宇など触媒科学研究所全体で学生研究交流会を支援した。	
金沢大学			カザン連邦大学		日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム			②企業・地方自治体等との連携 平成30年10月にタタールスタン共和国の大統領が石川県や本学を訪問した。シエトロ金沢による、地元企業等を対象としたフォーラムが開催された。 「ロシア連邦タタールスタン共和国交流フォーラム」 <a href="https://www.jetro.go.jp/events/kan/2854691a2b6da12b.html">https://www.jetro.go.jp/events/kan/2854691a2b6da12b.html</a>	②企業・地方自治体等との連携 平成30年10月にタタールスタン共和国の大統領が石川県や本学を訪問した。シエトロ金沢による、地元企業等を対象としたフォーラムが開催された。
創価大学								* 詳細は「(8)言語・文化・観光」の欄に記載	なし

セクション名	日本側大学	交流分野	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)		活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)
						平成30年度の参加者数	詳細は「(8)言語・文化・観光」の欄に記載	
天龍大学	天龍大学				インターシッ プ(中小企業イ ンターンシッ プの日露相互 での実施) その他(語学 研修)			
北海道大学	北海道大学	地震火山・防災	外務省 文部省 内閣府	・日本国及びロシア連邦の隣接地域における地震、火山噴火及び津波の予測、警戒及び対処の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム(政府日ロシア、外務省) ・日露科学技術協力(文科省) ・北方四島専門家交流事業(内閣府)	学生の相互派遣 その他(教員 の相互派遣)	教員参加者数 4名 学生参加者数 7名 若手研究者参加者数 3名	地震火山・防災分野での交流を実施中 ①大学間協定に基づく学生交流 ・ロシア科学アカデミー本部との包括連携協定。 ・穂東連邦大学から教員・大学院生招聘(H29)、日ロ青年交流センター経由招聘(H30-H31)。 ②企業・地方自治体等との連携 ・政府日ロ防災協力プログラム(外務省) ・日露科学技術協力(文科省)に登録、北方四島専門家交流事業(内閣府)の実施。 ・本学大学院生をフィールド調査等に派遣(最近ではH25、H26、H29)。 ・日ロ隣接地域の災害軽減による安全・安心社会の実現に関する研究教育交流。	
北海道大学	北東連邦大学	北極域の特長的開発 永久凍土生態系			専入・2名(ロシア側学生) (予定) 派遣・20名(ウイニタール・サマースクール)2名(日本側専攻担当者) (2016～202017年度の累計)			③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 平成29年度に北東連邦大学と北東連邦科学技術院の間で、北極域の特長的開発に関するジョイント・マスターコースを設け、(北東連邦科学技術院は平成31年度よりスタート)、平成30年度に北東連邦大学の修士2年生の学生を5名受け入れる予定。 平成28年度、29年度にヤクーツクにおいて実施したウイニタール・サマースクールの専攻担当者2名が参加した。 平成28年度、29年度、永久凍土生態系に関するサマースクールを行い、12名の学生を北東連邦大学、IBPO研究所に送り、実習を行った。
東海大学	ガス・原子力	私立ガスプロム小中高 等学校(旧名 公共株式会社ガスプロム附属 教育センター)	東海大学付属浦安高 等学校・中等部 東海大学付属高輪台 高等学校・中等部 東海大学付属静岡岡部 洋高等学校・中等部		その他(小中高 等学校の生徒 ・教員の相互 派遣)	③その他 ・派遣生徒(高校生) 3名 ・受入生徒(中・高校生) 10名		③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 2018年5月9日～13日、ガスプロム小中高等学校に本学付属高輪台生が訪問(3名)。ガスプロム主催の国際教育セミナーに参加。 教育セミナーでは「環境問題」をテーマとしてプレゼンを実施。 2018年11月25日から11月29日、ガスプロム小中高等学校より研修団が来訪。(10名)付属高輪台高等学校にて合同発表会を実施。 防。11月25日から11月29日、ガスプロム小中高等学校より研修団が来訪。モスクワ市内のガスプロム小中高等学校、「ガスプロム・クラス」(ガスプロムが出資して設置した特別クラス)を開校しているノヴィ・ウレンゴイ市の公立小中高等学校からの生徒、合計19名、引率6名、本学付属高輪台高等学校3校との合同セミナーを実施。 (2018年度) 5月、ガスプロム小中高等学校(モスクワ)へ本学付属高輪台生(3名)が訪問、教育セミナーに参加。 10月、ガスプロム校より研修団(生徒10名、引率教員5名)が来日、本学付属高輪台高等学校にて文化交流会を実施。
室蘭工業大学	バイオマス	穂東連邦大学	北海道大学 九州大学 三笠市	なし	なし			②企業・地方自治体等との連携 三笠市と室蘭工業大学は包括連携協定(2012年)



セクション名		日本側大学	交流分野	ロシア顔相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)	活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)
(5)産業多様化促進		北海道大学	地震火山・防災					教員参加者数 4名 学生参加者数 7名 若手研究者参加者数 3名	* 詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載  ①大学間協定に基づく学生交流 2018年1月1日より、日ロ青年交流事業若手研究者としてロシア極東連邦大学より1名の受け入れを行った。 ③その他(学生交流・人材育成)に関する実績と計画) 2018年8月にロシア・カムチャツカで開催された「第10回日本〜カムチャツカ〜アラスカ及び込み込み帯の火山地震活動」ワークショップに参加し、研究発表および交流を行った。このワークショップは、北海道大学・ロシア科学アカデミー極東支部火山地震研究所・アラスカ大学フエアバハンス校が2年に1度持ち回りで開催している。大学院生を含めた若手研究者の育成に力を入れている。は北大から7名の大学院生と、北大他3名の若手研究者、北大他4名の教員が参加した。研究発表では、ロシア人およびアメリカ人若手研究者との議論を通じた交流を行うことが出来た。
小樽商科大学		APEG 国際貿易に関する経済学・経済学・法学への大学の貢献		極東連邦大学	学生との相互派遣 その他(教員の派遣) その他(教員の派遣)		受入 毎年度1名程度 派遣 毎年度1名程度 教員の派遣 2014年4〜6月に、小樽商大が極東連邦大学法学大学院で国際経済法に関する集中講義		①大学間協定に基づく学生交流 学生交換協定に基づき交換留学(単位互換実施)により、毎年度1名程度の学部学生をロシア極東連邦大学から受け入れている。その中でAPEGに関する授業を行っており、これに關係する交流に関心がある。また、2013年にサハリン国立大学との間で交流協定が締結されたことから、向大大学からも研究学生と修士課程学生を国費留学生として受け入れている。
(6)極東の産業振興		北海道大学						教員参加者数 4名 学生参加者数 7名 若手研究者参加者数 3名	* 詳細は「(4)エネルギー開発」の欄に記載  ①大学間協定に基づく学生交流 2018年1月1日より、日ロ青年交流事業若手研究者としてロシア極東連邦大学より1名の受け入れを行った。 ③その他(学生交流・人材育成)に関する実績と計画) 2018年8月にロシア・カムチャツカで開催された「第10回日本〜カムチャツカ〜アラスカ及び込み込み帯の火山地震活動」ワークショップに参加し、研究発表および交流を行った。このワークショップは、北海道大学・ロシア科学アカデミー極東支部火山地震研究所・アラスカ大学フエアバハンス校が2年に1度持ち回りで開催している。大学院生を含めた若手研究者の育成に力を入れている。は北大から7名の大学院生と、北大他3名の若手研究者、北大他4名の教員が参加した。研究発表では、ロシア人およびアメリカ人若手研究者との議論を通じた交流を行うことが出来た。
北海道大学		森林資源管理 環境保護		極東国立農業大学	中川町 工務店(旭川の農具作家)		数名	受入 1名	これまでの実績として、極東国立農業大学 森林学部および土木工学部と平成10年度から研究教育交流を続けている。 ②企業・地方自治体等との連携 ロシア展開力事業の予算を財源として、極東農業大学の学部4年生を2ヶ月間招聘し、中川町、旭川(営地工務)の家具作家との共同での木材利用調査に関わる研究に従事した。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 2005年度、2006年度、2008年度に同大学の教員および修士課程の学生が、農学部および北方生物園フィールド科学センターを訪問。2005、2006、2008、2015年には、小林を含む北大のグループが同大学のふるさとアムール川の森林へ行き野外調査を実施。2010年度には、日露青年交流センターの助成を受け、同大学農学部(現、ロシア科学アカデミー極東支部 極東地質学研究所)が3ヶ月大規模研究に滞在し、林業研究に関する指導を行った。また、滞在中、紀伊国屋書店札幌店において、極東ロシアの森林に関する講演を行い、広く市民へ森林の現状を伝えた。





セクション名		活動内容（学生交流・人材育成に係る活動）								
日本側大学	交流分野	ロシア側相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携（地域連携）	プログラム名（和）	交流形態	規模（学生参加者数など）		活動内容	③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画）	
						平成30年度の参加者数				
大阪大学	核エネルギー・原子力	徳島県立大学 合同原子核研究所	高知大学 名古屋大学 九州大学		学生の相互派遣 その他（若手研究者の相互派遣、研究会・セミナーの開催等）	受入 ロシアから3名（予定） 派遣 日本から延べ3名程度（予定）	研究会「Development of simulation by GPU for the study of quark-hadron matter at high temperatures and densities」の開催、GPU搭載のスパコンシミュレーション開発とその基礎物理学への応用について、大学院生を含む若手人材育成のための講演・討論を行う。2019年11月頃までに、大阪大学から若手研究者を派遣し、11月のワーキングショップの成果を整理させ、大学院学生の育成のためのセミナー講演を行う。	③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） 2018年11月21日～22日に大阪大学核物理研究センターで、東進邦大学からの参加者を受けて、研究会「Development of simulation by GPU for the study of quark-hadron matter at high temperatures and densities」を行う。素粒子・原子核物理分野の専門である、超高温・高密度下の物質の性質に関する議論を行った。この協定の研究を2019年1月28～29日に徳島大学にて開催する予定。日本からは4名の研究者が参加し、上記テーマに加え、ハドロン物理の諸問題を議論する。		
北海道大学	生物計測化学	モスクワ国立大学			その他（セミナーの開催、実験指導など）		③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） 2018年9月に東北大学にて、東北大学多物質研究所の火原彰教授とモスクワ国立大学のSergei Eremin教授と学生交流・人材育成を含む今後の共同研究について議論した。モスクワ国立大学Analytical Chemistry Divisionの学生を1名受け入れて（2018年12月21日から2月27日）、実験指導を行う予定である。2019年2月に北海道大学総合化学学院学生1名をモスクワ国立大学に派遣する予定である。			
北海道大学	触媒					受入 ポレスコフ触媒研究所 3名 触媒科学研究所 7名	* 詳細は「(3) 中小企業交流」の欄に記載 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） ・11月19～22日ロシア・ポレスコフ触媒研究所（BIC）から学生3名を触媒科学研究所（ICAT）に招き、学生研究交流会を行った。 ・交流会スケジュール 11/20(Tue)午後 ラブ見学（7部門・技術室、概ね各20min） 11/21(Wed)午後 学生研究交流会 各研究室から学生1名の発表（7部門各1名・BIC3名、15分発表+5分質疑） 11/22(Thu) 午後 北大見学 学生交流会 11/23(Fri) 今後の交流活動について打ち合わせ			
東京工業大学	生命理工学 ライフエンジニアリング 原子核工学	モスクワ国立大学 モスクワ国立原子力研究所（MEPhI） ロシア科学アカデミー附属タンバフ研究所 ロシア科学アカデミー附属細胞生物物理学研究所 ロシア科学アカデミー附属微生物化学学生理学研究所 附属微生物物理学 ロシア科学アカデミー附属基礎生物物理学問題研究所 ロシア科学アカデミー附属プーシチン研究センター ロスアトム（ロシアの国営原子力企業） 株式会社味の素・インネチカリサーチ・インスティテュート（AGRI）		健康・医療産業 や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム	学生の相互派遣 短期研修（2週間） 長期研修（3ヶ月間以上） その他（学生交流シンポジウムを毎年1回開催）	①学生交流 ・派遣： MSUへ短期 8名、長期 2名、MEPhIへ短期 4名、長期 1名 ・受入： MSUから短期 8名、長期 2名、MEPhIから短期 4名、長期 1名 ②企業連携 AGRIへは、本学生 10名、教員 1名、MSU学生 4名、教員 1名が訪問。 RosatomTechへは、本学生 5名、教員 2名、MEPhI学生 2名が訪問。 キリン・味の素へは、それぞれMSU学生8名、本学生12名の予定。 ③その他 日露学生交流フォーラムは本学教員11名、学生15名、さらにMSU並びにMEPhI教員・学生を中心に総計約70名が参加。	①大学間協定に基づく学生交流 生命理工学・ライフエンジニアリング、原子核工学分野における学生交流を2017年度から5年間実施。 2018年からは毎年12名ずつ短期間（2週間）派遣・受入、毎年3名ずつ長期間（3か月間以上）派遣・受入。 ②企業・地方自治体等との連携 日露双方の大学の学生交流・教員交流に、日露企業（AGRI）が連携。 ③その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） 生命理工学・ライフエンジニアリング、原子核工学分野の学生交流シンポジウムを2017年度から5年間、毎年1回日本あるいはロシアで開催。 ④企業・地方自治体等との連携 在ロシア日本企業であるAGRIと連携し、本学生・MSU学生によるモスクワ現地法人見学、学生によるボスターセッションを実施したとともに、AGRI研究員が「日露学生交流フォーラム（下記）」へ参加し、研究員頭発表・ボスターセッションを実施。また、現地ロシア国営企業であるRosatomTechへ本学生・教員が訪問し、施設見学・意見交換を実施。H31年2月には、来日したMSU学生および本学生によるキリン社、味の素社の見学を実施予定。 ⑤その他（学生交流・人材育成に関する実績と計画） 日露学生交流フォーラムを9/24(土)にMSUにて開催。本事業の協力企業である岩田島津製作所、AGRI、RosatomTechからの企業紹介プレゼン、教員・学生による研究内容のオール・ボスタープレゼン、さらにはロシア学生との混成グループ分けによる学生グループ討論等を実施。同時にロシア側大学教員との本事業に関する年間計画実施状況の現状総括や来年度計画のすり合わせを実施。			





セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア領相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)		活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)
							平成30年度の参加者数		
(8) 国際・文化・観光	東海大学	ライフケア							平成30年度の活動 なし
小樽商科大学	小樽商科大学	APEC 国際貿易に関する経営学・経済学・法学 地域振興への大学の貢献							* 詳細は「(1)医療健康」の欄に記載、「(4)エネルギー開発」にも別掲あり  * 詳細は「(5)産業多様化の促進」の欄に記載
小樽商科大学	小樽商科大学	日露観光人材交流・育成	サンクトペテルブルグ国立大学 サンクトペテルブルグ国立映画テレビ大学	はこだて未来大学 TTTアプロードアカデミー	日露交流の礎となる観光人材交流・育成事業	学生の相互派遣 その他(研究者の相互派遣、セミナーの開催など)	派遣 1名(予定) (2018年にサンクトペテルブルグで開催される日本の観光都市・日本文化紹介セミナーに参加予定のロシア人学生数) サンクトペテルブルグ国立大学マスメディアセンター 80名程度(予定) サンクトペテルブルグ国立映画テレビ大学 100名程度(予定)	サンクトペテルブルグ国立大学:20名 サンクトペテルブルグ国立映画テレビ大学:20名	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 1) 日本の観光都市・日本文化紹介セミナーの開催 2) 日本国会議員・留学希望学生への相談会の開催 3) 日本への旅行・留学希望学生への相談会の開催 4) サンクトペテルブルグ各大学の制度、カリキュラム等の調査 5) サンクトペテルブルグのメディア(TV局等)の掲載  ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 2018年12月にサンクトペテルブルグで日露人材交流・育成事業を行った。サンクトペテルブルグ国立大学およびサンクトペテルブルグ国立映画テレビ大学の学生を対象に、北海道を中心とする日本の観光都市、日本文化を紹介するセミナー、日本語会話レッスンを開催した。セミナー後、日本への旅行、留学希望学生と相談会を行った。前者のセミナー・レッスンについては国立メディアセンターが映像番組を制作し、ロシア国内のテレビおよびYouTubeで放送予定である。而て大学の視察、観光および日本語学習等の制度およびカリキュラム等の比較・調査を関係者および学生に実施し、来年度以降のプロジェクトについて相談した。
北海道大学	北海道大学	・持続可能な開発のための教育(ESD) ・ESDグローバルパートナーシップ 協同教育プログラム	サハリン国立大学		双方対向型短期留学支援プログラム(ESD Campus Asia Pacific) ESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラム	学生の相互派遣 派遣 最大2名 受入 最大2名 (北京師範、サハリン国立大学、高麗大、ソウル国立大学、チュラロンコン大学)の10日間(夏季)プログラム)	派遣 4名 短期 3名 長期 1名 受入 4名 短期 4名 長期 0名	①大学間協定に基づく学生交流 教育学部では6大学5か国間の双方対向型短期留学支援プログラム(ESD Campus Asia Pacific)において、交流協定校のひとつであるサハリン国立大学教育学部と2017年度より開始している。同時にESDグローバルパートナーシップ協同教育プログラムとして、同年・同大学と3か月間の単位互換・双方大学「短期留学プログラム」も開始している(学生課程の学生を2-4名派遣)。而てプログラムは、国連が掲げるSDGsを達成するための学びを異文化理解、多言語教育の観点から深め、実践的経験を通じて、社会的教育指導者の育成を目的とする包括的な教育を目指すものである。特に後者の試みは教育学部の4分野(教育基礎論・教育社会科学・教育心理学・健康体育学)からいすれかの専門分野を選択し、SDGsの掲げる課題を高度な教育学統合を通じて学習する(7科目の単位互換)。専門分野の学びを通じて、歴史的にも地理的にも関連の深い北海道とサハリンの架け橋となる日露の将来に備えた人的交流を促し、視野の広いグローバルな人材育成を図るものである。	①大学間協定に基づく学生交流 なお、サハリン国立大学の学生に対し、本学教育学部教員による講義も行っている(平成30年度は「教育史」に関する講義(H30.9)「教育心理学」に関する講義(H31.3)を実施)。後者の授業は、在ユジノサハリンスク日本総領事館協力のもと、サハリン国立総合大学の教育プログラム「日本講師招へい」プロジェクトとしても実施されたものである。
北海道大学	北海道大学	東アジア・極東ロシア地域における移住プロセス、異文化コミュニケーション	サハリン国立大学 サハリン人文工科大学 サハリン州立歴史文書館 サハリン州立美術館 サハリン州国立郷土博物館 サハリン州国立理工科大学			その他(国際シンポジウム開催、共同プロジェクトの実施、共同出版プロジェクトなど)	受入(予定) 学生1名、教員1名	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) (サハリン) サハリン国立大学、サハリン人文工科大学、サハリン州国立歴史文書館、サハリン州立美術館、サハリン州国立郷土博物館といくつかの研究・教育活動を行っている。 2014年11月 サハリン国立大学を訪問(学長を表敬訪問、学生向け留学説明会の開催 等) 2015年 国際シンポジウムへの招待 2017年4月～2018年3月 サハリン州国立歴史文書館、サハリン州立美術館、サハリン州国立郷土博物館と共同プロジェクト「地域の生活における観光スポットとメディアとしての博物館」を立ち上げ 2018年度は「ポストコロナ」の空間における多文化共生の課題」というテーマで研究・教育活動を進める予定  【ノヴォシビルスク】 2015年11月ノヴォシビルスク国立工科大学訪問(副学長と研究教育交流に関する意見交換、学生向けの留学説明会の開催 等) ノヴォシビルスク国立工科大学人文科学部のメディア研究部門との具体的な交流状況は以下の通り ・北海道大学メディア・コミュニケーション研究院とノヴォシビルスク国立工科大学共同出版プロジェクトによる出版の準備を進めている。 ・TLLPやHSLIなどのプログラムを利用し、学生の交流を今後検討。	③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 2019年2月8日～15日ノヴォシビルスク国立工科大学から教員1名、学生(博士課程)の訪問予定。具体的な交流状況は以下の通り。1. 2月11日「多文化共生論」の授業にて教員の講義、学生の参加 2. 2月14日(予定)学生の共同勉強会(大学院生同士発表・コメントを行うセッション)

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア領相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)	実績(学生参加者数など)		活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)
								平成30年度の参加者数		
東北大学	東北大学	心理学	モスクワ国立大学		ジョイントリサーチ・バーハイゼット・ディグリープログラム(修士・博士)	学生の相互派遣	受入 2018年に1名	受入 1名	①都府県協定に基づく学生交流 2018年10月からセメスターの予定で、モスクワ国立大学の修士1年生をジョイントリサーチ・バーハイゼット・ディグリープログラムの学生として受け入れている。修士論文に関わる研究を開始した。	
東北大学	東北大学	日露異文化交流	モスクワ国立大学		モスクワ国立大学心理学部短期交流プログラム	学生の相互派遣	派遣 過去5年で4名 受入 毎年度6~8名	受入 4名 短期 8名 長期 1名	①大学間協定に基づく学生交流 2018年4月より、半年間の日本語学習得中心のカリキュラム(ODEP-BRDGE)に1名の留学生を受け入れ、サポーターしている。 2018年11月16~28日の期間、モスクワ大学の教員の引率で、8名のジョイントリサーチを受け入れた。案内における経費参加などのプログラムに加え、東北心理学会への参加、東北地方の文化体験などを提供した。同大から来ているジョイントリサーチ・バーハイゼット・ディグリープログラムの留学生、ODEP-BRDGEの留学生や、本学のモスクワ大学留学経験者との交流も行った。	
東京外国語大学	東京外国語大学	人文社会科学分野	モスクワ国立大学 モスクワ国立国際関係大学 ロシア国立人文科学大学 国立研究大学高等経済学院(ロシア) サンクトペテルブルグ国立大学 国立大学 樺東連邦大学	創価大学 (本学の専攻学生を派遣し、学生同士の交流を進めている。) 創価学園 (本学の専攻学生を派遣し、学生同士の交流を進めている。) ソニー 東河電機 テロイト 伊藤忠 三井物産 ジェトロ 国際交流基金等 (多額の企業・団体に本学学生および受入学生へのインターンシップの機会を提供してもらっている。)	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUES日露ビジネス人材育成プログラム	学生の相互派遣 インターンシップ	毎年度(2017~2021年度) 受入 約45名 派遣 約40名	①学生交流 ・受入 短期 29名 長期 17名 計46名 ・派遣 短期 23名 長期 16名 計39名 ②インターンシップ (本学学生) ・ロシアで15の企業・団体に18回、延べ86名が参加 ・日本国内で6つの企業で6回、延べ14名が参加 (受入学生) ・日本国内で10の企業・団体に11回、延べ119名が参加 ・ロシアで2つの企業で2回、7名が参加 ③その他交流活動 ・タシケント大学 28名 ・ロシア語授業TA 2名 ・創価産科ロシア語 2名 ・小学校でロシア語紹介 3名 ④ビジネス関連講座履修者 ・日露ビジネス講座: 55名 ・国際日本語: 40名 ・ロシア語医療通訳: 27名	①大学間協定に基づく学生交流 ・短期受入 2期間の「日露ビジネスサマースクール」実施 ・長期受入 日本語及び文化・経済関係科目を履修 ・短期派遣 学部前半のロシア語専攻学生ロシア語・ロシア文化を学習 ・長期派遣 6協定大学でロシア語や他の一般科目を履修 ②企業・地方自治体等との連携 受入・本学学生ともに日本国内及びロシアでのインターンシップ実施。受入学生については、一部を就業体験科目として開講。 ③その他(学生交流・人材育成に関する業績と計画) ・短期受入学生と本学学生との間で日露タシケント大学留学会を定期的に実施 ・長期受入学生が本学のロシア語の授業にTAとして参加 ・短期受入学生が創価産科のロシア語の授業に参加 ・長期受入学生が近隣の小学校で国際感覚を涵養するための授業でロシアとロシア文化を紹介。 実学としてビジネス関連講座を新規開講 ・日露ビジネス講義リレー開講 本学OB・OGで日露ビジネス経験者7名(TUES日露ビジネスネットワーク)が本学学生に授業内講演 ・国際日本語 日露ビジネス関係等を短期受入学生に講師5名がロシア語でレクチャー ・ロシア語医療通訳入門・ロシアからの医療ボランティアに携わる本学のOGが医療通訳の基礎を本学学生のために開講(受入学生4名がTAとしてサポート)	
新潟大学	新潟大学					学生の相互派遣	毎年度		* 詳細は「(2)都市づくり」の欄に記載	
大阪大学	大阪大学	日露教育交流・人材育成ネットワークの構築	モスクワ国立大学 ロシア民族友好大学 ウラル連邦大学 ノヴォシビルスク国立大学 トムスク国立大学 シベリア連邦大学 樺東連邦大学			学生の相互派遣 インターンシップ その他(語学検定試験受験サポートなど)	毎年度		①大学間協定に基づく学生交流 学生派遣・受け入れ ②企業・地方自治体等との連携 インターンシップ(観光業界) ③その他(学生交流・人材育成に関する業績と計画) 留学後定試験受験サポート	

セクション名	日本側大学	交流分野	ロシア領相手大学等	日本の他大学・自治体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)	平成30年度の参加者数	活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)	平成30年度の活動
上智大学	ロシア語 ロシア文化社会 グローバル社会	モスクワ国立言語大学 サンクトペテルブルク国立大学 サンクトペテルブルク国立文化大学 ケルソエン記念ロシア国立教育大学 リャザン国立大学 ヴォロネジ国立大学 ベトロサヴォツク国立大学 棉東連邦大学				学生の相互派遣	毎年度1~2名ずつ	交換留学派遣については、7つの協定校に計15名を派遣し、全員が2学期間留学を行った。 交換留学受入については、5つの協定校から12名を受入れ、うち1名は通常の学期ではなく、6-7月のサマーセッションに参加。その他の11名は1学期もしくは2学期の留学であった。	①大空間協定に基づく学生交流 9つの協定校のうち、リャザン国立大学以外の8つの大学と交換留学の交流実績があった。交換留学派遣者は、全員がロシア語学科の学生で、留学先ではロシア語能力の向上やロシアの文化社会等に対する理解を深めることができた。 交換留学受入については、大多数の留学生は本学の国際教養学部(所属し、英語による科目を履修した。専門科目を履修すると同時に日本語の言語についても学ぶことができた。また、モスクワ国立言語大学の学生は、大学院レベルで言語学専攻(TESOL)の科目を履修した。	①大空間協定に基づく学生交流 2018年11月22日、日露大学協会(人村交流委員を務める経済学部の両部(言語教授)が協定校のニジノヴゴロド国立言語大学より名誉教授の称号を授けられる。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画)予定 2019年3月11日~15日、両部(言語教授と三宅教授)経済学部准教授が協定校のロストフ国立経済大学を訪問し、学生交流の実施案について、アダム・アルヴェゴエフ学長と協議する予定。また同大学生に対してロシア語に関する講義を行う予定。
神戸学院大学	日本のアニメ・サブカルチャー	総務省 外務省 日露青年交流センター(JREX) 神戸市 神戸大学 神戸市立外国語大学	ニジノヴゴロド国立言語大学 モスクワ国立大学 ウラル連邦大学 ニジノヴゴロド市 エカテリンブルク市		学生の相互派遣 その他(伝統・現代日本文化フェスティバル・日露アニメ・オタク文化学生サミット)			ロシアでも人気の高い日本のアニメやサブカルチャーを通じて交流 ①大空間協定に基づく学生交流 ・派遣先: ニジノヴゴロド国立言語大学 ・派遣対象: 学部学生 5名 ・派遣期間: 5月11~17日 ・その他に、ニジノヴゴロド国立言語大学より2017年7~9月の2か月半(1名)、2018年9月の一か月間(2名)の学生をインターンとして受け入れた。 ②企業・地方自治体等との連携 ・2017年、総務省の日露地方自治体間交流促進事業の一環として、神戸市が主催した学術・学生交流プログラムに神戸市内の二大(神戸大学・神戸市立外国語大学)とともに参加し、エカテリンブルク市とウラル連邦大学を訪問し、学生間交流を行った。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) ・「日本語「橋渡し」との協力行事として日露青年交流事業として採択(事業名「伝統・現代日本文化フェスティバル in ニジノヴゴロド」:ロシアにおける日本年」行事) ・活動実績: ・「日露アニメオタク文化学生サミット」(日露青年交流事業、モスクワ国立大学) ・「第2回日露アニメ・オタク文化学生サミット in 神戸」(日本政府が推進する対日理解促進交流プログラム、神戸学院大学ホートランドキャンパス)	①大空間協定に基づく学生交流 2018年11月22日、日露大学協会(人村交流委員を務める経済学部の両部(言語教授)が協定校のニジノヴゴロド国立言語大学より名誉教授の称号を授けられる。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画)予定 2019年3月11日~15日、両部(言語教授と三宅教授)経済学部准教授が協定校のロストフ国立経済大学を訪問し、学生交流の実施案について、アダム・アルヴェゴエフ学長と協議する予定。また同大学生に対してロシア語に関する講義を行う予定。	



セ ク シ ョ ン 名	日本側 大学	交流分野	ロシア領相手大学等	日本の他大学・自治 体・企業等との連携 (地域連携)	プログラム名 (和)	交流形態	規模(学生参加者数など)		活動内容(学生交流・人材育成に係る活動)
							平成30年度の 参加者数	平成30年度の 活動	
神戸市外国 語大学	神戸市外国 語大学	学術面…人文学、 特に語学、通訳・ 翻訳学、外国語教 育 教育面…共同研 究・教材開発・共 同論文指導(コ ミュニティ)・招聘研 究者による講義、 相互の遠隔講義 (通訳・翻訳、語学 教育と国際理解 教育を目的とする 短期相互派遣プ ログラム、ICTを用 いた日露の学生 による協働の学 び、アクティブラー ニング、若手研究 者の育成)	モスクワ国立大学 国立プーシキン記念ロ シア語大学 クハニ国立大学 ウラル連邦大学 太平洋国立大学 エカテリンブルグ市	総務省 神戸市 神戸大学 神戸学院大学		学生の相互派 遣 その他(ロシア 側の教員の招 聘、ロシア語 言語文化短期 研修の実施な ど)	モスクワ国立大学…夏・春 休暇 5～10名/回 派遣 11名 国立プーシキン記念ロシア 語大学…半年～1年間 1 ～3名/年 派遣 2名 クハニ国立大学…2名/年 派遣・受入 ウラル連邦大学…1名/年 派遣・受入 太平洋国立大学…2名/年 派遣・受入 2017年度派遣実績 8大学 13名 2013～2018年度の累計 受入 10名 派遣 107名	①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学(1997年～) ロシア語教授法を専門とする教員(ロシア語 ロシア文化学院所属)の招聘(1975年～)、長期休暇期間(夏・春)のロシア語言 語文化短期研修の実施(単位認定 5～10名/回) ・国立プーシキン記念ロシア語大学(2001年～) 半年～1年間の長期派遣留 学の実施(単位認定、1～3名/年) ・クハニ国立大学(2016年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、2名 /年)。充分の招待を受け、2017年度中にも本学の休養が訪問し、今後の学 術交流の展開について意見交換の予定。 ・ウラル連邦大学(2015年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、1名 /年、但し今後枠を拡大する予定) ・太平洋国立大学(2016年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、2 名/年) 交流実績 交換留学(提携校3校5名) 3校とは学生・教員、学術交流協定締結 ・クハニ国立大学、ウラル連邦大学、太平洋国立大学 * 短期留学(夏季、春季)、その他私費による単位認定留学あり (2017年度派遣実績 8大学 13名、2013～2018年度の累計参加者数 受入10 名(交換留学)派遣107名、内訳:交換留学12名、長期派遣留学51名、短期派 遣留学44名) ②企業・地方自治体等との連携 2017年、総務省の日露地方自治体間交流促進事業の一環として、神戸市が 主催した学術・学生交流プログラムに神戸市内の二大学(神戸大学・神戸学 院大学)とともに参加し、エカテリンブルグ市とウラル連邦大学を訪問し学生間 交流を行った。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 伝統・現代日本文化フェスティバル、日露アニメ・オタク文化学生サミット。	①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学(1997年～) ロシア語教授法を専門とする教員(ロシア語 ロシア文化学院所属)の招聘(1975年～)、長期休暇期間(夏・春)のロシア語言 語文化短期研修の実施(単位認定 5～10名/回) ・国立プーシキン記念ロシア語大学(2001年～) 半年～1年間の長期派遣留 学の実施(単位認定、1～3名/年) ・クハニ国立大学(2016年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、2名 /年)。充分の招待を受け、2017年度中にも本学の休養が訪問し、今後の学 術交流の展開について意見交換の予定。 ・ウラル連邦大学(2015年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、1名 /年、但し今後枠を拡大する予定) ・太平洋国立大学(2016年～)学生の相互派遣(単位認定、学内選考あり、2 名/年) 交流実績 交換留学(提携校3校5名) 3校とは学生・教員、学術交流協定締結 ・クハニ国立大学、ウラル連邦大学、太平洋国立大学 * 短期留学(夏季、春季)、その他私費による単位認定留学あり (2017年度派遣実績 8大学 13名、2013～2018年度の累計参加者数 受入10 名(交換留学)派遣107名、内訳:交換留学12名、長期派遣留学51名、短期派 遣留学44名) ②企業・地方自治体等との連携 2017年、総務省の日露地方自治体間交流促進事業の一環として、神戸市が 主催した学術・学生交流プログラムに神戸市内の二大学(神戸大学・神戸学 院大学)とともに参加し、エカテリンブルグ市とウラル連邦大学を訪問し学生間 交流を行った。 ③その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 伝統・現代日本文化フェスティバル、日露アニメ・オタク文化学生サミット。
創価大学	創価大学	自治体と大学との 連携・仲介による 相互の学生イン ターン受入れ支 援、コミュニケー ション養成	モスクワ国立大学 徳東連邦大学 ロシア民族友好大学 モスクワ国際大学 トルストイ記念メウーラ 国立教育大学 フレハーノフ記念ロシ ア経済大学 ロシア国立人文大学 北東連邦大学 ハイカル国立大学			学生の相互派 遣	毎年度 受入 8～10名 派遣 8名 2013～2018年度の累計 受入 45名 派遣 52名	①大学間協定に基づく学生交流 ・モスクワ国立大学 交流協定(1975年～) 学生相互派遣(長期留学、4名/年、単位認定あり) ・徳東連邦大学 交流協定(1991年～) 学生相互派遣(長期留学、1名/年、単位認定あり) ・ロシア民族友好大学 交流協定(2014年～) 学生の相互派遣(長期留学、3名/年、単位認定あり) ・ハイカル国立大学 交流協定(2015年～) 学生相互派遣(長期留学、1名/年、単位認定あり) ・北東連邦大学 交流協定(2018年～) 学生相互派遣(長期留学、1名/年、単位認定あり) ・その他の交流協定を持つ大学 ・サンクトペテルブルク国立大学、モスクワ国際大学、トゥーラ国立教育大学、 フレハーノフ記念ロシア経済大学、ロシア国立人文大学、プーシキン記念国立 ロシア語大学(2014～2016年で学生派遣) 上記の大学に随時、学生を派遣している。 ③ その他(学生交流・人材育成に関する実績と計画) 2016年 「ロシアセンター」開設	モスクワ国立大学交換留学(派遣4名、受入4名) 徳東連邦大学交換留学(派遣1名、受入1名) ロシア民族友好大学(派遣3名、受入3名) Student Union学生交流会(約20名) ロシア語フェスティバル(約120名) ロシア民族友好大学ノチ分校代家庭受入(約40名)

## 専門セクションに係る活動報告①

### －新潟大学における「医療健康」セクションの取組－

#### 1. 「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」の形成

新潟大学は、医学部において四半世紀にわたってロシアの極東地域を中心とした医科大学との交流を行ってきました。それらの実績がベースとなり平成 26 年度の大学の世界展開力強化事業の採択を受け、更にパートナー校や交流学生・教員数を増加させ、日露の交流拡大に注力してきました。HaRP 事業においては、北海道大学とともに中核を担う大学であり、専門セクション「医療健康」のリーダー校として日露の医療健康分野の発展に資する高度人材育成を推進しています。

さらに、日露の医学医療の発展と、新潟の経済発展等のために総合的な支援を行う枠組みとして、新潟地域の産・官・金・学の連携により「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」を形成しました。

【設立の目的】 新潟地域の企業、金融機関、自治体、関係機関等と新潟大学の相互連携により、医学生・医師・研究者らの人材育成活動を含めた日露の医学医療交流を通じて、両国の医療の発展、産業・技術の革新や、地域の発展に貢献することを目的とします。

【コンソーシアムを形成する機関・団体】

新潟大学（幹事機関）、新潟県、新潟市、公益財団法人環日本海経済研究所、株式会社第四銀行、三井物産株式会社

（順不同 2018 年 4 月現在）

#### 【2018 年度における主な活動】

- ・ 6 回の会議開催
- ・ ホームページの開設
- ・ 日露医学医療シンポジウム 2018 の後援



## 2. 日露医学医療シンポジウム 2018 の開催

【日時】2018 年 11 月 9 日（金）・11 月 10 日（土）

【場所】ホテルイタリア軒（新潟市）

【参加者】約 150 人（ロシア人研究者等約 60 人を含む）

【シンポジウムの概要】

2 日間で 4 つのセッション（(1)新潟大学の日露交流、(2)医学教育、(3)医学研究、(4)腫瘍学の先端的トピック）が設けられ、このうち新潟大学の日露交流に関するセッションでは、新潟大学が四半世紀にわたる日露医学交流の実績をベースとして平成 26 年度から採択を受けている「文部科学省 大学の世界展開力強化事業」の様々な取組（学生交流プログラム、共同研究プロジェクト等）の報告や、プログラム参加学生からの発表が行われました。



その後のセッションでは、日露の第一線の研究者による先端研究の発表や、大学の取組を紹介するポスター発表が行われました。

また、本学が県内の自治体・研究所・金融機関・企業と共に形成している「日露医学医療交流コンソーシアムにいがた」の企画により、シンポジウム会場内には県内企業による医療・健康関連の機器・商品を展示するブースが設けられ、参加者の関心を集めました。

今回のシンポジウムを通じて、研究者の専門的知見が深められたのはもちろんのこと、日露の各大学間だけでなく産官学の交流も促進され、大変有意義な会となりました。

## 専門セクションに係る活動報告②

### －東海大学における「ウラジオストク航海」－

日本とソ連の間にほとんど国交がなかった50年以上前から日露交流を行ってきた東海大学の主催で、日本及びロシアの複数の大学の学生・教職員が参加をする「ウラジオストク航海」が実施されました。

【期間】2018年8月7日（火）～8月19日（日）

（日本人の大学生：8月7日～15日，  
ロシア人の大学生：8月10日～19日）

【参加大学】

〈日 本〉東海大学（主催），新潟大学，  
近畿大学，北海道大学

〈ロシア〉極東連邦大学，サハリン国立大学



東海大学海洋調査研修船 望星丸

【参加者数】学生 約100名，教職員 約20名

【研修の目的・内容等】

このプログラムは、文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業」－ロシア等との大学間交流形成支援－に採択された東海大学のプログラム「ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成」の一環で、日露間の関係の深化と経済発展に資する人材育成を目的とした取組です。



留萌での出港式における集合写真

東海大学の海洋調査研修船「望星丸」に日本の大学の参加者が乗船して留萌(北海道)を出港し、ウラジオストクの極東連邦大学を訪問した後、復路においては極東連邦大学とサハリン国立大学の学生・教職員が加わり、清水（静岡）に入港する航海で、総勢約120名（学生約100名，教職員約20名）が参加しました。





学生フォーラムでの発表

船上講座（日露の教員によるレクチャー、ロシア語講座等）、極東連邦大学における講義の受講、日露の文化体験、“Proposals for Better Life Care in Japan and Russia”をテーマとした学生フォーラムでの討論や発表などのプログラムや、船上での共同生活・共同作業を通して、日露の交流を深めることができました。

船上という特殊な環境を活かした点、日露の複数大学が参画し、短期間の集中的な取組であった点が特色として挙げられ、参加学生からも非常に好評を得ました。

参考 URL：東海大学「ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成」HP

<http://www.russia.u-tokai.ac.jp/vladivostok/>



船上での集合写真

※東海大学提供の写真を含む

## 専門セクションに係る活動報告③

### －北海道大学における「都市づくり」セクションの取組－

#### 1. 「都市づくり」ウラジオストクセミナーの開催

【日時】2018年9月28日（金）

【場所】極東連邦大学（ウラジオストク）

【演題】

①「札幌版次世代住宅の設計手法とエネルギー消費実態について」

森 太郎 准教授（北海道大学大学院工学研究院）

②「積雪寒冷都市における風雪シミュレーションを用いた北方型スマート街区の都市デザイン手法について」

渡部 典大 助教（北海道大学大学院工学研究院）

③「極東ロシアにおけるパッシブソーラーハウスについて」

Pavel A. Kazantsev 教授（極東連邦大学）

【参加者数】約 50 名

【参加者の所属】FEFU 学生，教職員，PHI ロシア参加企業，等

【内容】

本セミナーは，The 26th International Specialized Expo, GreenFest, the 2nd International Ecological Festival に合わせて開催されました。セミナーでは，札幌版次世代住宅における省エネ・断熱技術に関する研究紹介，風雪の影響を低減する都市デザイン研究の紹介，ウラジオストクでの省エネ住宅研究（パッシブソーラーハウス）の取組紹介が行われ，共通する寒冷地域の建築・都市の課題に対して意見交換が行われました。



## 2. シベリア連邦大学とのミーティング

【日時】2019年2月5日（火）

【場所】極東連邦大学及び北海道大学（Skype で実施）

【参加者】

・北海道大学

瀬戸口 剛 大学院工学研究院長・教授

小俣 友輝 大学力強化推進本部 URA

ロマーエヴァ マリーナ 国際部国際連携課産学官連携コーディネーター

・シベリア連邦大学

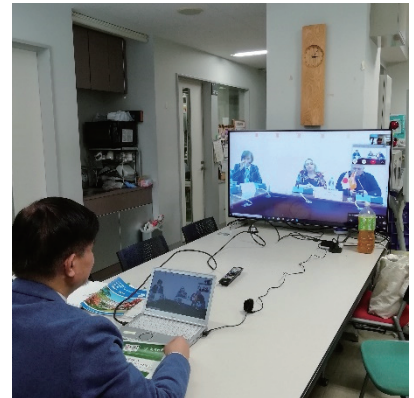
ドゥブロフスカヤ 土木建設学部副学部長

アメリチューゴフ 建築資材・建築技術学科長

【内容】

北海道大学から「寒冷地建設に関する日露大学コンソーシアムによる人材育成」の紹介をし、シベリア連邦大学土木建設学部から「Nordification of high-latitude construction」及びその他の研究（東京電機大学との共同研究「Bio-based and Bio-inspired Environmentally Compatible Structures」など）、地方自治体との提携事業の紹介がありました。

今後、部局レベルでの相互紹介（教員リストやサマースクール・学会などのイベントの情報交換）から始めることで合意を得ました。



## 3. 太平洋国立大学での国際フォーラム「NEW IDEAS OF NEW CENTURY」への参加

【日時】2019年2月17日（日）～2019年2月24日（日）

【場所】太平洋国立大学（ハバロフスク）

【内容】

北海道大学と極東ロシアの基幹5大学が協働して実施する日露共同の教育プログラム「RJE3 プログラム」の学部生向け準備科目において、北海道大学工学部に所属する4年生8名が国際フォーラム「NEW IDEAS OF



NEW CENTURY」に参加しました。フォーラムでは、卒業論文や日露学生によるワークショップ発表などが英語で行われ、北海道大学の学生が卒業論文発表においてグランプリを受賞しました。



#### **4. 「都市づくり」セッション 意見交換会の開催**

次ページに掲載

#### **5. サンクトペテルブルク及びモスクワ訪問**

2019年3月下旬に、サンクトペテルブルク及びモスクワへの訪問を予定しています。

サンクトペテルブルク：大学や企業が参加するセミナーへの出席

モスクワ：モスクワデザイン技術大学との打ち合わせ



## 専門セクションに係る活動報告④

### －専門セクション意見交換会－

#### 1. 「都市づくり」セクション意見交換会

【日時】2019年2月28日（木）

【場所】筑波大学東京キャンパス(東京)

【参加者数】9名

【所属】日露の大学，日本の官民団体

【内容】各位の活動について情報交換の後，日露経済



協力や人的交流，人材育成の発展方向について討議しました。要点は以下のとおりです。

1. 日本の大学でのロシアとの交流は，個人的な研究交流でのつながりを契機に教育交流へと発展し，特に北海道・新潟での都市づくり分野における交流は，その背景に寒冷地という共通点がある。
2. 大学のみならず，国土交通省所管の寒地土木研究所や北海道建設部住宅局も，近年隣国ロシアの極東地域に目を向け，研究者の受け入れやロシアで開催される関連学会への参加等を通じて交流を深めている。
3. 上記の日露交流の結果育っていく優秀な人材の活用のために，雇用主となる企業との情報交換や外国人の専門家の採用がもたらすメリットについて啓発する必要がある。その方法としては，日露企業間交流の活発化の他，愛知県で平成30年度から実施されている留学生インターンシップ事業における官民の協力が挙げられる。特にインターンシップが近年，外国人専門家の採用を促す手段として注目され，カリキュラムの中に組み込む大学が増えている。
4. 日本が留学生に選ばれる国になるには，産官学の連携が有効に機能し，また，各地の魅力のアピール（観光名所から名物料理まで）も重要性を増している。
5. 人材会社などの力を借りて留学生インターンと企業をマッチングさせる事業の実施によって，中小企業における雇用環境を整えることが今後の重要課題。また，外国人の人材の定着にあたって，住宅の提供や生活環境の調整などの課題にも直面するが，数年後，行政レベルで対策を講じねばならないだろう。

## 2. 「先端技術協力」セッション意見交換会

【日時】2019年2月28日（木）

【場所】筑波大学東京キャンパス(東京)

【参加者数】6機関より7名

【参加者】室蘭工業大学，金沢大学（2名），東海大学，大阪大学，近畿大学，北海道大学（ファシリテーター）

【内容】

本意見交換会は，「先端技術」を「時代を牽引する可能性を秘め，日露の協働により相互の経済発展が期待できる技術」と据え，これまでロシアと協働する際に各組織で遭遇した様々な課題や解決策等の情報を共有し今後に生かすことを目的として開催されました。



参画メンバーの自己紹介に続き金沢大学田中教授を座長と決定した後，あらかじめ提供された資料をもとに各大学が協働する大学や企業，自治体とともに進める取り組みに関して情報共有と質疑応答を行いました。

金沢大学（ロシア人博士前期課程学生の企業見学とインターンシップを実施），室蘭工業大学（レアアースに関するWSへの教員招聘と大学院生，若手教員の国際インターンシップを実施），近畿大学（電気電子工学等理工学やものづくりの分野で学生を派遣／受入），東海大学（超音速科学，レーザー技術等で学生派遣／受入や研究・事業化交流を実施），大阪大学（核物理学の分野で古くから教育研究交流あり）それぞれが報告をし，課題としてインターンシップ受入先の開拓（金沢大），単位互換や就職先の問題（東海大）等があげられました。また産学連携の進め方について，企業からの講師や奨学金，寄附金の受け入れ，最新技術を軸とした交流等のアイデアが共有されました。今後も産業界との接点作りを継続し，例えば日露大学協会総会，次回実務者会議等で継続して共有することとしました。またロシア側連携先に工学系の学部が存在する方が，産学連携を進めやすい可能性がある旨のコメントがありました。



座長の金沢大学田中教授（中央），同大ママードウァ准教授（右），北海道大学小俣URA（左）

## 専門セクションに係る活動報告⑤

### ークラスノヤルスクでの現地調査ー

ロシアで面積が二番目に大きく、ロシア最大の水力発電所が2つ稼働し、エネルギー・鉱物・森林資源が豊富な工業地帯であるクラスノヤルスク地方は、日本センターを持つシベリア連邦大学をはじめ、市や地方政府、企業の人材が関わる「日本との交流を進めるクラスノヤルスク地方の会」の活動が活発です。2019年2月4～8日の調査ではインターンシップ交流の可能性や地域コンソーシアムのモデルに関する情報収集も含めて、6組織に対して都市づくり、先端技術協力、医療健康を中心とした意見交換を行いました。

#### 1. クラスノヤルスク市役所対外関係部（Krasnoyarsk City Administration）

北海道や愛知県などを中心に文化行事をはじめ日露交流を支援してきた。また、下記のモノリットホールディング株式会社、日建設計、シベリア連邦大学と地域コンソーシアムとして協働し、APEC低炭素スマートシティ事業（調査の結果を今後の都市づくりにおけるガイドラインに）を実施した実績がある。クラスノヤルスク



クラスノヤルスク市役所対外関係部

市から、同市 HP に北海道地域コンソーシアム参加組織一覧の掲載や、ノヴォシビルスクに倣ってビジネス・レセプション in クラスノヤルスクが提案された。

#### 2. シベリア連邦大学（Siberian Federal University）

都市づくり・人文社会・経済経営・北極域研究・情報技術などの分野を中心に、日本の大学や企業との連携に関心がある。経済経営学部は、2014年から外務省の日本センターとクラスノヤルスク地方政府経済発展局と共同でロシア大統領プログラムである「企業経営者養成計画」を



シベリア連邦大学

クラスノヤルスク地方の企業を対象に実施している。木造建築、グリーン建築、北方圏における建築やスマートシティ研究が進んでいる土木建設学部は、2013年より日建設計と連携しており、寒冷地適応型建設技術開発企画で北海道大学などとの連携を提案。2000年に国際交流基金の補助で開設された同大の日本センターは日本語講座を開講しており、複数の日露交流事業を実施。（<http://news.sfu-kras.ru/node/21331>）



### 3. クラスノヤルスク地方政府対外関係部 (Krasnoyarsk Region Government)

毎年、合宿形式で研修を行う学生や若手専門家を中心とした青年フォーラム「TIM Biryusa」を開催している。2019年7月9～15日に開催予定の国際フォーラムのテーマは「エネルギー開発」。参加費負担の相談も含め日本からの講師と参加者は大歓迎。



クラスノヤルスク地方政府対外関係部

### 4. シベリア国立科学技術大学 (Siberian State University of Science and Technology)

旧名 シベリア国立航空宇宙大学。ロシアの10の連邦大学や国立研究大学と競争する33の基幹大学の一つである。広大な演習林を持つ。連携先にはロシアのユニークな企業、情報衛星システム株式会社がある。特に、林業学・機械工学・宇宙技術開発に注力しており、



シベリア国立科学技術大学

同分野で日本との交流が提案された（6ヵ月にわたって学生チームで小型人口衛星の組み立てプロジェクトもある）。英語修士プログラムも以前から実施しており、そのカリキュラムがインターンシップを含む。（<https://www.sibsau.ru/content/307/>）

### 5. シベリア連邦研究医療センター (Federal Siberian Research Clinical Center)

2012年と2013年にAPEC保健国際シンポジウムを開催し、2019年に非感染性疾患をテーマに第3回シンポジウムを開催予定。中央・東南アジア、中国、インドなどと交流協定を締結。特に核医学（陽子線治療）、災害医学（ロシア非常事態省との連携）、神経学・神経リハビリテーション、臓器提供・移植、心臓病学、呼吸器内科の分野で日本の大学・医療機関との交流に関心あり。医学研修生・専門家の派遣（1～3ヵ月）・受け入れ、共同研究とその成果の共同発表（共著）、ロシアと海外の補助金の共同申請、学会・セミナー・ワークショップの共催の提案あり。

### 6. モノリットホールディング株式会社 (OOO MonolitHolding)

ロシア有数の住宅団地建設会社であり、クラスノヤルスク地方をはじめ、シベリア・極東・欧露各地の福利厚生施設、モスクワ州のスコルコヴォ財団関連施設などの建設業績を持つ、国や地方政府からの受託が多い企業。日建設計、シベリア連邦大学、クラスノヤルスク市等と協働したAPEC低炭素スマートシティ事業では四者が非常によく連携した成功例。寒冷地適応型（省エネ）のスマートシティ設計に注力。インターンシップ交流の可能性あり。

## 5. 日露学生連盟

日露学生連盟は、学生の日線と立場から、日露交流を推進する組織です。

2018 年 5 月開催の第 1 回日露大学協会総会にあわせて開催された学生フォーラムで、学生連盟の立案が提議され、日露大学協会総会において設置が承認されました。

### 日露学生フォーラム

2018 年 5 月に開催された第 1 回日露大学協会総会（4 ページ参照）の一環として、5 月 18 日（金）及び 19 日（土）に、本総会の一環として両国の学生同士が直接交流することによる相互理解と友好関係の構築のため、日露学生フォーラムが開催されました。フォーラムには、日露合わせて 34 名の学生が参加し、意欲的かつ長時間に渡り、日露の交流推進について討論しました。19 日（土）の日露大学協会総会の中で行われた成果発表会では、日露の学生代表が、林文部科学大臣や在札幌ロシア連邦総領事館コレスニク領事、及び総会参加の各大学の学長等に、議論の成果を発表しました。発表の中で、学生達からは、学生の日露交流促進・課題解決のために学生連盟の設立が提案されました。成果発表に対する講評の中で、林大臣及びコレスニク領事から高い評価を得ることができました。また、学生達は、エクスカーションやレセプション等でも交流を深めました。

### 開催概要

#### 【日時】

2018 年 5 月 18 日（金）～19 日（土）

#### 【スケジュール】

5 月 18 日 午前：エクスカーション

午後：グループワーク（ディスカッション）等

5 月 19 日 学生代表の成果発表

#### 【場所】

北海道大学 学術交流会館（札幌市）

#### 【参加者数】

34 名（日露大学協会加盟校の学生）

#### 【言語】

英語



# 5月18日(金)

時間	プログラム
9:00-	ホテル出発, 移動中のバスの中で自己紹介
9:45-12:00	エクスカーション (北海道開拓の村)
12:00-12:45	昼食
13:00-13:15	オリエンテーション, インTRODクッション (学生連盟/学生フォーラムの説明)
13:15-13:25	フォーラムのトピックに関するコメントの発表 (グループごとに一人ずつ)
13:25-14:55	グループワーク (ディスカッション)
14:55-15:10	休憩
15:10-16:40	グループワーク (ディスカッション)
16:40-17:30	グループごとの発表, 質疑応答
17:30-17:50	再検討・意見集約
17:50-18:00	休憩
18:00-18:10	翌日の成果発表担当者の選出
18:10-19:00	(成果発表者等) 発表準備・提言書作成
	(その他の学生) 翌日の議論(日露交流の進め方)の進行方法等の検討
19:00-19:30	バスでレセプション会場に移動
19:30-	レセプション (夕食会) 成果発表準備



グループディスカッションの様子



エクスカーションの様子

## 5月19日(土)

時間	プログラム
8:30- 9:00	学術交流会館へ移動・受付
9:00-10:45	(成果発表担当者) 発表準備 (その他の学生) 学生連盟 (今後の学生交流の進め方) についての議論
10:45-11:00	休憩
11:00-12:25	(成果発表担当者) 発表準備 (その他の学生) 学生連盟 (今後の学生交流の進め方) についての議論
12:25-12:40	午前中の準備, 議論の情報共有 成果発表資料の共有 (成果発表担当者→その他の学生) ディスカッションの共有 (その他の学生→成果発表担当者)
12:40-14:00	昼食
13:50-14:10	(成果発表者) 文部科学大臣への挨拶
14:00-14:10	休憩
14:10-14:45	学生による成果発表 (20 分) 講評 (15 分)
14:45-15:05	写真撮影
15:15-15:45	最終討議 (今後の学生交流の進め方についての発表)
15:45-16:00	休憩
16:00-16:30	名誉学位授与式への出席
16:30-16:40	閉会式



成果発表の様子



林文部科学大臣による講評

## Japan

No.	Name	University
1	Seira Shimizu	Hokkaido University
2	Yuki Onishi	Tohoku University
3	Daishi Okura	University of Tsukuba
4	Rino Nishiuchi	Chiba University
5	Yuri Yamagiwa	Niigata University
6	Hana Yamao	Kanazawa University
7	Taishi Furuki	Hiroshima University
8	Yumi Saigusa	Nagasaki University
9	Taichi Maemura	Kobe city university of foreign studies
10	Yuka Takeda	Soka University
11	Yamato Iitsuka	Waseda University
12	Kambiz Torabi	Tokai University
13	Sayaka Jean Suzuki	Nanzan University
14	Shiho Ozaki	Kindai University
15	Naoya Sakaguchi	Kobe Gakuin University
16	Daisuke Hyodo	Tokyo University of Foreign Studies
17	Oki Takeuchi	Kobe University
18	Ayano Omura	Sophia University
19	Hiroki Ueda	Tokyo Institute of Technology

## Russia

No.	Name	University
1	Vasilina Bogomolova	Irkutsk State university
2	Nataliia Stoliar	Altai State University
3	Elizaveta Revkova	Ryazan State University named for S. Yesenin
4	Danil Sokolov	Novosibirsk State University
5	Ilona Vasileva	Hokkaido University
6	Alisa Vyacheslavova	Hokkaido University
7	Anastasiia Paukaeva	Hokkaido University
8	Viktoriia Antonenko	Hokkaido University
9	Anastasiia Shumova	Kobe City University of Foreign Studies
10	Nataliya Lashkevich	Kobe City University of Foreign Studies
11	Alla Misanova	Kobe City University of Foreign Studies
12	Svetlana Platnitskaia	Niigata University
13	Sergei Anisimov	Niigata University
14	Zgurskaia Elvira	Sakhalin State University
15	Natalia Oshchepkova	Far Eastern Federal University



日露学生フォーラム参加者による集合写真



## 6. 日露産官学連携実務者会議



2019年2月28日（木）に、筑波大学東京キャンパスにおいて、「第1回日露産官学連携実務者会議」を開催しました。

この会議は、北海道大学と新潟大学が共同採択された文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプB：プラットフォーム構築プログラム）」の事業（HaRP事業）の取組の一つで、日露交流を行う産官学の関係者が一堂に集い、グッドプラクティスの共有、日露の経済協力を支える人材育成のための情報交換などを行うことで、産官学連携の強化、日露交流の発展及び促進を目的としたものです。

会議には、日露交流を行う大学（日本の大学22校、ロシアの大学7校）に加え、文部科学省、経済産業省、企業・団体等（17の機関・団体）から約100名が参加しました。



採択校活動状況報告会の様子

第1部の「採択校活動状況報告会」では、北海道大学の笠原理事・副学長及び文部科学省の進藤高等教育局高等教育企画課国際企画室長による挨拶から始まり、続いて大学の世界展開力強化事業（ロシア）の採択校から、これまでの活動の成果や課題、今後の展望についての紹介及び質疑応答が行われました。今回初めての試みとして、同事業採択校のみならず、展開力事業採択校のみならず、日露の交流を行う大学や企業・団体等に対して取組を紹介することも目的として、参加者に制限を設けずに実施しました。



質疑応答の様子

第2部の本会議においては、北海道大学の笠原理事・副学長及び文部科学省の進藤室長



からの挨拶に続いて、（1）HaRP事業における産官学連携の説明、（2）新潟大学及びクラスノヤルスク医科大学による医療分野の取組の発表、（3）日本又はロシアでインターンシップを経験した4人の学生の発表、（4）モスクワ



国立大学及び太平洋国立大学による産官学連携に対する期待に クラスノヤルスク医科大学の発表  
についての発表がそれぞれ行われました。

その後、日露でのインターンシップをテーマとしてパネルディスカッションが行われ、北海道大学の瀬戸口工学研究院副研究院長をモデレーターとして、パネリストである（株）



パネルディスカッションの様子

日建設計総合研究所、Man to Man（株）、愛知県からそれぞれのインターンシップを通じた人材育成の活動について紹介があった後、近畿大学及び双日（株）から、インターンシップの推進方策について、これまでの経験談を基にした大学と産業界それぞれの立場からのコメントがありました。パネルディスカッションにおいては、聴衆からも活発な質問が寄せられ、今回のテーマへの関心の高さがうかがえました。

会議の最後には、経済産業省の鶴田通商政策局欧州課長から、8項目の経済協力プランを支える人材育成への期待について挨拶がありました。

本会議は、日露交流に関心のある大学及び関連の自治体、企業、団体等が一堂に会する貴重な機会であり、この会議を契機として産官学連携による日露交流が一層促進されることを期待しています。

## 総会開催概要

【日時】2019年2月28日(木)

【スケジュール】午前 採択校活動状況報告会

午後 本会議

【場所】筑波大学東京キャンパス文京校舎（134講義室）

【参加人数】98名

【参加機関】

大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校、日露大学協会加盟校、文部科学省、経済産業省、ロシアの大学、日露交流を行う企業、自治体、団体等（後述の「参加機関一覧」参照）

[第1部] 採択校活動状況報告会

- ・挨拶 笠原 正典 北海道大学 理事・副学長  
進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課 国際企画室長
- ・平成26(2014)年度世界展開力強化事業採択校の発表
- ・平成29(2017)年度世界展開力強化事業採択校の発表
- ・文部科学省と採択校による懇談

[第2部] 採択校活動状況報告会

- ・挨拶 笠原 正典 北海道大学 理事・副学長  
進藤 和澄 文部科学省高等教育局高等教育企画課 国際企画室長  
鶴田 将範 経済産業省欧州課 課長
- ・全体説明（専門セッション及び産官学連携に関する説明）
- ・新潟大学及びクラスノヤルスク医科大学における医療分野の取組
  - ・地域コンソーシアムによる産官学連携の取組  
牛木 辰男 新潟大学 理事・副学長
- ・クラスノヤルスク医科大学における人材育成  
Alla SALMINA クラスノヤルスク医科大学 国際担当副学長
- ・インターンシップ参加学生による発表
  - ・日本でのインターンシップ経験者  
Violetta CHUKHLEB 極東連邦大学（北海道大学受入）  
Shamil RAMOV モスクワ国立大学（東海大学受入）
  - ・ロシアでのインターンシップ経験者  
佐藤 みなみ 筑波大学  
平原 響 極東連邦総合大学函館校
- ・産官学連携に対するロシアの大学の期待  
Vera LUCHKOVA 太平洋国立大学 建築デザイン研究科長  
Alexander RAEVSKIY モスクワ国立大学 准教授
- ・企業・自治体とのパネルディスカッション  
【テーマ】日露インターンシップについて
  - ・モデレーター  
瀬戸口 剛 北海道大学工学研究院 副研究院長
  - ・パネリスト  
石川 貴之 株式会社日建設計総合研究所 理事 上席研究員  
布垣 明 Man to Man 株式会社グローバルマーケット開発部 次長

佐藤 令奈 愛知県政策企画局国際課調整・留学生グループ 主査

・ コメンテーター

菱川 邦俊 近畿大学インターナショナルセンター 准教授

金子 雅昭 双日株式会社 自動車本部自動車第二部 担当部長

・ 記念写真撮影

・ 交流会（自由懇談会）

## 参加機関一覧

### ●関係省庁

文部科学省，経済産業省

### ●日本の大学

・ 大学の世界展開力強化事業（ロシアとの交流）

平成 26(2014)年度採択校 5 校：

東北大学，筑波大学，東京大学，新潟大学，北海道大学

平成 29(2017)年度採択校 8 校：

千葉大学，東京外国語大学，東京工業大学，金沢大学，

長崎大学，福島県立医科大学，東海大学，近畿大学

・ 日露大学協会加盟校

神戸大学，広島大学，上智大学，南山大学，神戸学院大学

・ 専門セッション参画校

室蘭工業大学，小樽商科大学，長岡技術科学大学，大阪大学

### ●ロシアの大学

モスクワ国立大学，太平洋国立大学，クラスノヤルスク医科大学，極東連邦大学，

イルクーツク国立大学，サハリン国立大学，北東連邦大学

### ●企業，自治体，団体等

・ 企業等

株式会社日建設計総合研究所，Man to Man 株式会社，双日株式会社，日本たばこ産業株式会社，ピー・ジェイ・エル株式会社，株式会社ジャパン・エア・トラベル・マーケティング，TTT アブロードアカデミー，ジェーアイシー旅行センター株式会社

・ 自治体，団体等

経済産業省北海道経済産業局，北海道，愛知県，国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所，独立行政法人日本貿易振興機構，NPO 法人日本・ロシア協会青年部，NPO 法人日本サハリン協会

## Japan-Russia IAG Conference

The Japan-Russia Industry,  
Academia and Government  
Working-level Conference

## Japan-Russia Student Forum

Japan, Sapporo, Hokkaido University



5/19/2018

1

## Partnership between Russia and Japan

students' perspective

2

### Agenda:

- Introduction
- Aim
- Problems
- Possible solutions
- Summary
- Conclusion

3

### Our aim:

Improving relationship between Russia  
and Japan by enhancing cultural and  
educational exchange between our  
countries

4

### What we have done during the Forum

- Tried to understand deeply cultural differences between our countries
- Shared our exchange experience
- Summarized our thoughts

### Present you problems we found important and suggest possible ways of solution

5

### We divided problems into several levels:

- ① Lack of information for students who do not know about exchange programs at all
- ② Lack of motivation of students who already know about such programs to participate in exchange
- ③ Lack of communication between students who are already studying in Japan or Russia

6

### Lack of information for students who do not know about exchange programs at all

- Despite having a “theoretically” available information, many students do not know at all about possibilities to participate in exchange
- This problem exists in both countries
- It means that current system is inefficient and it needs to be improved

7

### Lack of information about exchange programs

#### Possible solutions:

- Student association in each university
- Website, which can provide key information about exchange programs
- Cultural Festivals, events

8



**Lack of motivation of students who already know about such programs to participate in exchange**

- Many students do not know true culture (Stereotypical image)
- Afraid of speaking foreign language and not being understood
- Students do not understand benefits of exchange programs

9

**Lack of motivation of students who already know about such programs to participate in exchange**

**Possible solutions:**

- Provide consistent events for Japanese to make them familiar with culture
- Establish monthly skype speaking club for students who learn languages
- Provide stable relationship

10

**Lack of communication between students who are already studying/have studied in Japan and Russia**

- Lack of the informal events
- No connection among Russian students in Japan and vice versa

11

**Lack of communication between students who are already studying/have studied in Japan and Russia**

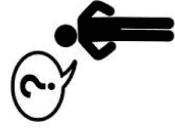
**Possible solutions:**

- Support annual Student Russia-Japan forum as traditional event and involve former exchange students
- Website can provide database of all exchange students profiles
- Create the domestic events

12

## Summary of solutions:

13



What makes it possible?

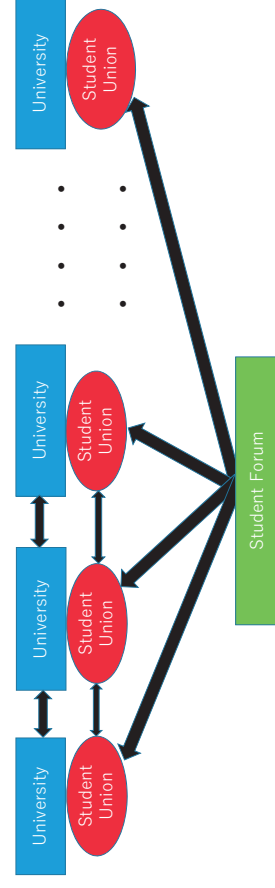
## Platform for Russia and Japan «Student Union»

14

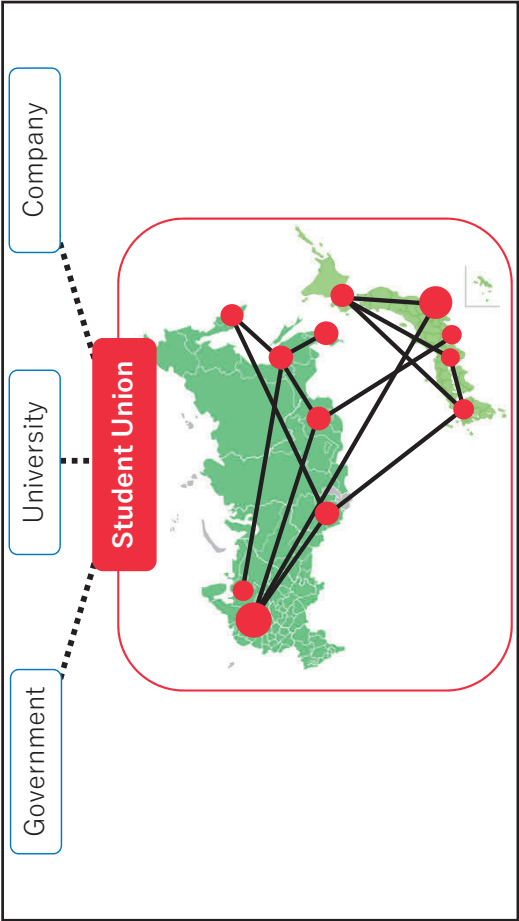
### What Student Union can do

- Provide information for students (Website, youtube sns etc.)  
(culture, daily life, exchange program, language etc.)
- Connect people (students, local people, universities)  
Enable students who have experienced to study JP or RU to  
contact and strengthen relationships

15



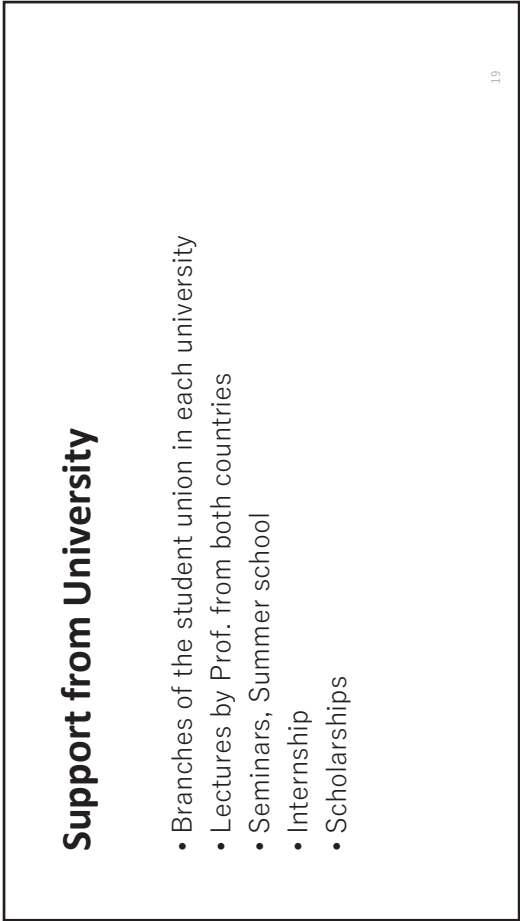
16



18

# Support from the Government

- Career bank/forum
- Scholarships



19

# Support from University

- Branches of the student union in each university
- Lectures by Prof. from both countries
- Seminars, Summer school
- Internship
- Scholarships

20

Thank you for attention!

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Seira Shimizu (Hokkaido University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I had many ideas in the discussion, and other Japanese students in the same group would say to me that I had a good idea. Plus, there were this student who had many good ideas, and he gave the final presentation from all of us, so I would often cheer him up.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

In Russia, there are many Japanese Anime and Japanese TV show that Russian people can see. In Japan, there are less to know about Russia, so that in one of the purpose of the student union.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Giving information about studying abroad and culture etc. to both Russian students and Japanese students.

## 4. Influence on your student life, career development

It was very interesting to have some discussion in English, and very nice to have friends from all over Russia and Japan. Especially, students from Japan had many abilities and knowledge that I didn't have, and students in Hokkaido University don't have. So it was very interesting to have conversation with them.

## 5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Yuki Onishi (Tohoku University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

In the first day, firstly we discuss about how we cooperate between Japan and Russia from now in each group. We discussed about how can we support for people who want to exchange with each other's country people during study abroad or live their own country. I proposed that promoting common paying system to make easy to live or visit each other from the point of technology field view. I focused on that cashless rate is still low especially in Japan, and this is make hard to live in Japan for foreigner. So if the cashing system is spread in Japan, it easy to manage to live here for exchange students.

In the second part of the forum, I joined representative team for presentation of second day. We collected of our shared information which we discussed. I suggested that we create the opportunity to exchange both country students in each university.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

What I strongly felt was that both countries' students hope to make connection between Japan and Russia stronger and have motivation to encourage it. We usually know about Russia through mass media, so it was not clear what Russian and Japanese people truly think against each other. But it was found that almost all of us feel that exchanging activity is currently not efficient because some of reasons and should change this situation. It was cleared that there are such a lot of students who hope to two countries tied up strongly. The members of Student Union are active in various fields, so we can expect to encourage to connect people in different fields. I felt the capability of the encouraging Student Union.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Student Union could be centerpiece or bridge of whole students and educational institutes and government who hope to involve in exchange between two countries. I'll explain what I can do from two aspects. One is in my university and the other is in Student Union. In my university, I plan to provide platform to share information about university life or culture among students who want to learn and already study in both countries, and I can make opportunities to spread their study abroad experiences for the same university students who are interested in Japan-Russia relationship. Sharing information before beginning of study abroad, it's useful to image the exchange life. This is the first step to activate exchanging between Japan and Russia in my university. In Student Union, I want to contribute to spread attractive information for everyone through creating Web site. I'm engage in making web site in my laboratory, so I hope this experience can help to create Student Union Web site.

## 4. Influence on your student life, career development

I have joined some programs which is related to Russia. From these experiences, I already felt that there are some Russian people who are interested in Japan. So I hope to encourage Japan-Russia relationship in my university before graduation. But I was not sure how can I encourage to achieve this goal. In this forum, Student Union starts to work. I found that there are a lot of young people in both countries who also hope to make relationship stronger as same. I felt possibility of Japan-Russia relationship and really looking forward to making relationship stronger more and more. While I belong to my university, I'll try to work as a Student Union core member and connect among a lot of students. And then I want to work in the company and encourage two country relationship more from the science field which is my major.

## 5. Others (free description)



# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Daishi Okura (University of Tsukuba)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

During the forum, my main role was leading my own group and giving presentations as a representative of the forum. I think I could share some useful opinions from some points of view as an experienced person, because I experienced studying abroad program and the forum. At the end of the forum, what I could make a final presentation is a biggest achievement of mine and our students at the same time. I think it's important that we could start our Union actually. Now I'm trying to push this project forward.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

What I have learned through this forum is a leadership. Not only in my first group, but also in a selected member's group, I tried to lead members and gather everyone's opinion to integrate into a final presentation.

Three years ago, when I participated in the forum, I had difficulties even in communication in English, but this time I could work spontaneously and actively. What was a biggest thing for me is that I could give a final presentation as representative in front of the minister of MEXT and rectors from universities at the end of the Forum. If I think back the first forum, which was held three years ago, this is a really big progress for me.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union(Things you want to do, you can do)

First, Im going to built a basement of the Union, organizing face to face or online meetings. We will gather in Tokyo with some members on 11<sup>th</sup> July, and also we are plannig another gathering event in August. These will be the first step for this goal. In addition to this, I'm going to acceralate activities in my University, making a branch of the Union, and organizaing some events. Now I'm taking some interviews of students, and collecting some support members. We are goint to prepare some events toward next semster.

## 4. Influence on your student life, career development

Thanks for this forum, I have realized that I would like to keep in touch with and contribute to Japan-Russia relationships as much as I want. Now I'm working as a core member of the Union, so I hope this project will make some bridges between our countries. In two years I will graduate from my university. Until then I would like to build a basement and pass it to the next students.

Still I don't know what I'm going to do in the future, but if I will get some chances to go to Russia, then I'm willing to go there.

## 5. Others (free description)

I would like to express my deepest gratitude toward professors, organizers and participants who put their energy and time for this forum. Thorough this forum, I could get precious experiences, connections and friendships not only with Japanese, but also Russians. I'm sure that this forum helped to improve our relationships and opened the next steps in real for the better future. I know we are still on the way, but this was big one step forward. I hope more people will get interest in Japan-Russia relationships though these kind of activities, and join the project.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Rino Nishiuchi (Chiba University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

To improve the relationship between Japan and Russia, this forum was held.

My role in the forum was knowing other students ideas and discussing with them as a student who have become interested in Russia recently.

In my opinion, the relationship between Japan and Russia will improve if there is enough information and service because many people are interested in each other's country.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

I learned many people wanted to build a good relationship between Japan and Russia more than I thought. I found it that I haven't realized that just because I wasn't in Russian community.

I also felt that lack of the information prevented us from making better relationship. I think a few Japanese know about Russia. I think many Japanese have stereotypes of images for Russia like Russia is so far and people are cool. How many Japanese people know that there are cities which we can go in a few hours and Russians are very kind and friendly! Also information and service for education and career isn't enough. There aren't many exchange programs or scholarships and many people actually don't know where and how to get these information. To put it the other way around, the more information and service we can get, the more people are get interested in the relationship between Japan and Russia.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Students are expected to make a platform for interaction between two countries. Through this platform, they are expected to held some events, provide information and so on. In addition to these, every university can held an event together and share the information through the platform. I'm also expected to build it and want to do if I can. However it's difficult because I'm doing experiment to write graduation thesis and want to concentrate on that. So I decided to be a connector. I will introduce my friends to students who I met in this forum and are going to build this platform. I also can tell people around me about Russia and my experience of this forum. I think it's a good way to make an interest for Russia as a first step.

## 4. Influence on your student life, career development

The experience in this forum would help my student life and career development. It was really good to meet many students in this forum. They opened my eyes for Russia and taught new ways of thinking. We have different background. We have different nationality, hometown and major. We are all different but also have the same idea. We all want to build a good relationship forever and make a better world. To achieve this, we need to know and understand each other better. I think many challenges and experiences help us to be a person who can achieve this goal.

## Rino Nishiuchi (Chiba University)

## 5. Others (free description)



↑ We visited Historical Village of Hokkaido. Our guide also told us he would like to build a good relationship between Japan and Russia.



← After the forum we went sightseeing together. We talked many topics like about own hometowns, their hobby and the reason why they are interested in Japan or Russia.

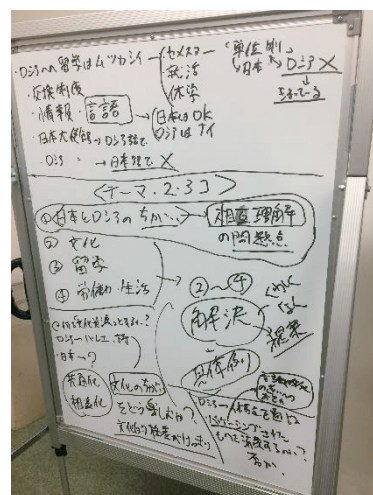
## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Yuri Yamagiwa (Niigata University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

We had two-day schedule in the Student Forum. On the first day, we were divided into some groups and discussed the theme 'Common and different issues Japan and Russia, Exchange system Issues/possible ways of exchange'. There were two Russian students and four Japanese students in my group. The two can speak Japanese fluently, so we made our discussion in Japanese. We compared Russia and Japan in a lot of aspects such as education system, working environment, culture etc. We finally concluded into that it is most important to understand and accept the differences. We thought about how to make students to get interested in each country and brought some ideas. Then all groups were again brought together and shared ideas. Each group made presentations in several ways and it was exciting to listen to. Most of the groups had similar thought to the theme, so we selected our representatives and they made some slides for tomorrow presentation.

It was the biggest event on the second day that our representatives made a presentation in the conference, while the rest of us discussed how to organize the Student-Union. We again made some groups and tried to bring ideas, but it was a tough task to decide details about the Student-Union in limited time. We made a Facebook group and decided to discuss the details through Facebook later.



↑ Memo in our group discussion

## 2. Things you have learned through the Student Forum

I have learned that we Japanese students should train our skill to express our thinking. Russian students speak much more than Japanese students, and I was really impressed with their attitude to the discussion. Japanese students might have had ideas or passion in same level as Russian students, but if so, we should have been involved in the discussion more actively. In my case, I hesitated to speak because I worried about my English. I would like to have more chances to discuss in English and get used to expressing my thought without worrying about mistakes.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Now such forum or other projects are not planned and conducted by students, and some Japanese students hesitate to join because of some reasons, such as that they can't speak English or that they have no image to Russia. We think that we might be able to make events which are easier for students to join and offer more useful information for students. We would like to start to share our experience of this forum in each university and then try to plan activities for students who are interested in Russia or interaction with Russian students.



## Yuri Yamagiwa (Niigata University)

## 4. Influence on your student life, career development

I'm in the medical faculty and I have little chance to interact with students in other faculties, so it was a refreshing experience to talk with both Russian and Japanese students studying in various fields. Each participant had high motivations for international exchange and clear visions to their future, which motivated me a lot. I could make my goals in the future clearer and find that I should make more effort to realize my goal.

## 5. Others (free description)

I would like to express my gratitude for my university giving me such a wonderful opportunity, and for staffs and teachers in Hokkaido university who mainly organize this forum. I also say thank you to all participants. It was a wonderful experience for me to spend two days with you. I hope we can work together in next project.

Thank you.



↑ Sightseeing after the forum



## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Hana Yamao (Kanazawa University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

In our group, we discussed the way to enhance the exchange of people between Russia and Japan. We found the lack of information is the issue. We propose to make good use of the SNS or something like the website to offer information. And we confirm the importance the role of participants to produce the chance for students to know about Japan and Russia. The majors of the members of my group were different and the interests also differed. It took time to decide the theme to discuss. I offered a suggestion to concentrate on the issue at the level of students. I think it contributed to construct our presentation.



During this forum I tried to make relation with students from both Russia and Japan. I could talk and discuss with many students.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

In this forum, I had a chance to make good relations with students from Russia and Japan. It was my first time to discuss with students who had completely different backgrounds, such as their nationalities, universities and majors. It was sometimes difficult for me to understand topics in other grounds, but I was stimulated the best thing, which I leaned through from this forum is that so many students from both Russia and Japan had concerned about the way to improvement the Russia-Japan relation.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I expect the Japan-Russia Student Union to offer the members more opportunity for meetings. The continuous meeting will keep the development of relation among students. And I want to promote this Union in my university and make more students to be involved in Japan-Russia student relations. I also want to play a role as the blanch in my university to correct the information about how many students are interested in Russia for our project of this Forum 2018 to make information platform.

## 4. Influence on your student life, career development

To take part in this japan-Russia Forum I could experience the flow to construct relation with people from different grounds. The discussion with other participants was very meaningful and it was filled with things which I had not known. I found it very interesting for me to discuss with people who had different grounds to make strategies to solve problems which related our same concern. I will continue trying to get such opportunities to be meet and have relation with people from other fields. And through this forum I found that my ability to opinion making or skill for speaking English were more poor than other students. It was also useful to improve my student life with reconfirming my level.

## 5. Others (free description)

During this forum, I had a special time with other participants and I could take part in meaningful relation among students between Russia and Japan. Before I participate this forum, I was unfamiliar with the issues about Japan-Russia relation. But through this forum making connection with the Japanese students who majored about Russia or had interesting Russia and Russian Students who were friendly to Japan, I was impressed by their enthusiasm. I want to thanks to all participants to have precious time with me and all staffs to organize and support the forum and to give me the chance to participate.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Taishi Furuki (Hiroshima University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I did not know about Russia, but I tried to contribute the group by giving opinions which I have got my experiences.

2. Things you have learned through the Student Forum

I have never learned about Russia, so it became a good opportunity to learn about Russia. I did not know that Japanese culture is popular in Russia and many Russian students are interested in Japan. On the other hand, as Japanese, we do not know about Russia that much. We should know about Russia more, which can make our relationship better.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

We can probably gather the information in each university and we can also share the condition of universities by using e-mail or SNS as we talked in the student forum. We can share the information about events, scholarships, studying abroad programs and so on through Facebook or something, which makes us get the information easily.

4. Influence on your student life, career development

I could broaden my horizon by communicating with Russian students in the forum because I have never learned about Russia, which will probably helpful for my career as well. What I have learned from Japanese students from different universities is also nice for me. They stimulate me to study more.

5. Others (free description)

I am really glad to attend the forum. I appreciate everyone's cooperation and I just want to say thank you to all staff in Hokkaido university.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Yumi Saigusa (Nagasaki University)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I often participated as a position not understanding the Russian Federation.

I knew by experiences that foreigners would not compromise on discussion.

So, I tried to put together the opinions of the group and kept common consciousness.

After all, I summarized everyone to ensure that the results are convincing.

### 2. Things you have learned through the Student Forum

Japan can find a friendly relationship with the Russian Federation.

### 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Speak behaviors and remarks that are socially difficult by using the position of students.

### 4. Influence on your student life, career development

I would like to spread not only medical technology but also medical engineering, disaster medical treatment, radiation.

### 5. Others (free description)

I participated in the Japan - Russia Student Forum held in May 2018.

There are 19 universities from Japan, and many universities from the Russian Federation participated in the conference. On the first day I learned about the history of Ainu and Hokkaido. And I learned that I have a close relationship with the Russian Federation. Because I live in Kyushu, I thought that the country familiar to Japan was Korea. However, I realized that the Russian Federation is also a close country. The Russian Federation student were fluent Japanese speakers and I was very surprised.

International students who came to Japan know that they are struggling to derstand grammar. They were glad that the interest in Japan was high. The meeting did not have time, but I was able to put together opinions. Because, Hokkaido University students were preparing in advance. I think that Hokkaido University, which is closer to the Russian Federation, should be an important position in relation to future Japanese-Russian students. However, Hokkaido has a similar climate with the Russian Federation, so I think that Russian Federation students should attend in Kyushu. I think that we should make effective relationship with the Russian Federation not only in some areas but throughout Japan. Also, we should gather at Japanese universities and learn about the Russian Federation before the meeting. Because the understanding of the participating students to Russia is not the same level. If we aim for improvement of Russian-Russian relations, we think that common consciousness is necessary first. Although there are circumstances and it is difficult to adjust the schedule, I think that you should also do Internet conference etc. Either way, I think that it is hard to hand over as students change every year.

Last but not least, I would like to thank everyone involved in the Japan - Russia Student Forum.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Taichi Maemura (Kobe city university of foreign studies)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

We discussed various matters lying between Japan and Russia from a viewpoint of a student. As a student who majors in Russian, I brought up some problems in teaching of Russian in Japan, which focuses on language education itself and lacks of practical learning which is vital for further progress of relations between our countries, for instance, politics, economics and law. Finally we came up with the idea of “Student Union” which promotes mutual understanding each other to share various information related to Japan and Russia.

### 2. Things you have learned through the Student Forum

Through this forum I have learned that Russian students have consciousness of lack of information and people-to-people exchanges between Russia and Japan. Also, I have learned that they consider various problems in coastal province in Russia as a matter which should be solved under the cooperation of our countries.

### 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

As we discussed through the forum, we, as a student who is on behalf of each university, should construct network of the Union by sharing information of each university and each region. I would like to play a leading role to share various information of my university and city Kobe.

### 4. Influence on your student life, career development

As a student who major in Russian, it was a huge honor for me to participate in Japan-Russia student forum 2018. Now I would like to find a job in diplomatic field, and I want to put this experience to good use in the work.

### 5. Others (free description)

Thank you very much for everyone who took part in the forum. Do Vstoryeti!

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Yuka Takeda (Soka University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I did not play special or important role in this forum, but we could talk deeply about everything and I provided talk theme .

2. Things you have learned through the Student Forum

Now I can't use well English, so I decide to strive to study English and to remain more year in university. Because I had realized that I have not good language skill and experiences thanks of participating in this forum and talking with students.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Now I and some students are planning to make a exchange event in Russian Center of Soka Uninersity. So I began to recruit students, who join in Student Union and planning that event.

4. Influence on your student life, career development

I had been influenced in my life and future by this forum. I was surprised that many students could speak English fluently and they interested in Russian although they don't study Russian.

5. Others (free description)



## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Yamato Iitsuka (Waseda University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

My role was the debater of the forum, and debate with other Japanese students and Russian students about issues or differences between Japan and Russia in the first day.

In the second day we discussed about Student Union (it is the organization for the students who are related to Russia and Japan).

## 2. Things you have learned through the Student Forum

I learned the importance of studying foreign language. Because if we can't speak foreign language, we can't give opinion or exchange it.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I want to be a starter of Student Union in my university. I can expand the existence of the Union in my university.

## 4. Influence on your student life, career development

My interest in Russian culture and Russian language increased, so I want to learn about Russia.

## 5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Kambiz Torabi (Tokai University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

In student forum, I gave two presentations. One was for summarize and convey opinions of my group to other students and the other one is for summarize opinions of whole group and roll of “student union” to presidents on behalf of other participants. Through this program, I generally contribute to gather and summarize opinions and give a presentation.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

Through participating this forum, I could learn about differences of situation between a Japanese student and a Russian student, because Japanese students doesn't have much interests about Russia. It means they don't know well about Russia. However, lots of Russia students have interests about Japan but they don't have much opportunities to come Japan such as student exchange program.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Actually, I have never been to study abroad in Russia. That's why I can not spread my experiences to people who have interests in Russia. However, I can take place Russian event for spread attraction of Russia, because the problem is Japanese students doesn't know well about Russia. After Japanese students got interests about Russia, they must want to go study abroad. Thus, a limit of exchange student will expand. In short, a limit of Russian exchange student will also expand. If we can attract Japanese student, we can solve the problem of Russia.

## 4. Influence on your student life, career development

This program gave me big influence to my student life, because I could be a part of the first student union between Japan and Russia. The rest of my student life, I would like to spend all my energy into student union. Moreover, if it is possible, I want to take place Russian event for spread attraction of Russia.

## 5. Others (free description)

Through this program, I concerned just one thing. My concern is student forum needs to respect student's opinion. When I gave an opinion which is “Japan and Russia need to deregulate a visa.” However, one professor immediately cut into our discussion and said “It can be involved political issues, so I don't recommend to include it in your presentation.” After that no matter what I said, that professor doesn't accept my opinion. I was really disappointed about that point, because it is controlled opinion. Thus, I thought development of Japan and Russia is limited to be honest, because even student opinion is limited.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Sayaka Jean Suzuki (Nanzan University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Through the student forum, in my discussion group we discussed about the relationships between Russia and Japan, and how we should increase the connections. As a conclusion, we stated that both Russia and Japan should have more exchange students in the University. That means we need to have more exchange programs. In the discussion, I think I have participated a lot in the student forum. I had the chance to state and spread my own ideas and opinions in front of the students.

2. Things you have learned through the Student Forum

Before attending the forum, I did not know anything about Russia. However through the forum, I had the chance to learn about Russia in so many ways. Because I communicated with many Russian students, I was able to learn Russia not only from a political and economical way, however in a cultural way too. You don't get to learn about Russia in a cultural way from the media because most news are about political and economical event. I was able to learn about the Russian lifestyle.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Someday, I would want to hold a event that is called "Russian Day" in my university which is located in Nagoya, Japan, inviting the people from the Japan-Russia Student Union. In my university, we just held a event that is called the "Russian Week". However, in "Russian Day" I want to invite the local Russian students.

4. Influence on your student life, career development

Through the student forum, I realized that I love to speak out and spread my ideas. I hope this personality can be used in my career.

5. Others (free description)

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Shiho Ozaki (Kindai University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

First, our group came up with our interests related to issues that Japan and Russia have. Lack of person exchanges between those countries in academic fields was the common recognition among the participants. Sharing and exchanging the ideas of researches, scholars, and also the information for tourists and students who study in Japan and Russia is much less than other English-speaking countries and Asian countries. We concluded that the establishment of some kind of platform to improve person exchange between Japan and Russia is one of the solution for our recognition.

In the group discussion, I wrote down the ideas that the participants mentioned and summarized them for the up-coming presentation. Also, I recommended myself for the facilitator in the plenary session which we discussed about the Student Union.

2. Things you have learned through the Student Forum

Through this forum, I was not only able to deepen the understanding of the relationships between Japan and Russia in my own way, but also was able to find my tasks for the future by standing in front of everyone to discuss about the Student Union. I realized that I need to learn how to facilitate a session like the plenary session. It did not go well and one of the senior student helped me at the end. The way to help a meeting go well in a big group was different from those smaller one I have been participated before.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Sharing the informations for those who are studing in Russia or Japan is essential and one of the things what I would like to do the most. Looking for the daily info is easy and there are many sites about it even though we compared with other major countries but when it comes to the emergency, it is important to get the assistance from a reliable sourse immediately.

4. Influence on your student life, career development

I was able to get to know people from various background through this forum. They inspired me in many ways including giving me a new perspectives and visions. Interaction with Russian student was rare in my university before and it made me want to learn Russian as a language more. I have been participating Forums related to Russia for three times but my knowledge about the country is scarce. I would like to keep engaging in Russia somehow in the future.

5. Others (free description)

I would like to thank all those who organized this forum and participants. I am looking forward to meeting you again soon.



# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Naoya Sakaguchi (Kobe Gakuin University)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

It was my pleasure to participate to this forum. There were many people who have a lot of acknowledge and an excellent career. However, despite they have a wonderful idea, they didn't try saying their opinion. So, I thought I can pull out their opinion. I positively asked everyone questions with cherishing interaction. As a result, we could talk about way to promote relationship between japan and Russia, not just our group, but everyone. When we talk about Japan-Russia Student Union, everyone was passive. Therefore, I moderated at the meeting. I believe that it was useful for this forum.



### 2. Things you have learned through the Student Forum

Actuary, I was nervous a little bit because I have not thought about relationship between japan and Russia before coming this forum. Moreover, we had to talk with the people who we meet for the first time in three days. Anyway, I expected that almost all people felt same feeling. Therefore, I decided to act cheery and positivity. In short, I learned that acting nicely to communicate to people is very important because discussion is made by person-to-person.

### 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

To be honest. It is difficulty to contact regularly with Russian side because there is no department of Russia. However, I believe that I can work as member of the Japan and Russia Student Union in some way. If someone fold event or workshop, I can promote to do it easily through using SNS.



## Naoya Sakaguchi (Kobe Gakuin University)

## 4. Influence on your student life, career development

I have started to think about way to promote relationship between japan and Russian through studying about Russian culture. Especially, I am interested in the Northern Territories issues. More think about that, more I want to know about Russian. About my career, thanks to this forum, I got a prize form my university. Now, I want to visit Russian to know more about Russian.



## 5. Others (free description)

Thank you for giving such great opportunity.

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Daisuke Hyodo (Tokyo University of Foreign Studies)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

The student forum is related to the relationship between Japan and Russia. During the forum we walked, talked, and discussed together and deepen our relationship. We discussed especially the “student union”, which is the platform for the students in both country, Japan and Russia. Then let me talk about my role in the forum. I was the youngest participant in the forum, so I wanted to make the most of my youth, by telling my opinion openly. Because I was chosen for the group leader, I tried to explain what our group discussed to the leaders of the other groups.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

What I learned through the student forum is that there are so many differences and also similarities between Japan and Russia. For example, in terms of superstition, custom, school system... But in the forum, at least, I could understand that students in both countries hope we can improve the relationship. And also, I felt that Russian students have more information or knowledge of Japan than Japanese students do. Other Japanese students had the same feeling. I thought we Japanese side should spread the culture of Russia than now.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

- Providing information(culture, daily ilfe, exchange program, language etc.)

for students (through website, youtube, sns etc.)

- Connecting people(students, local people, universities etc.)

Things I want to and can do is to provide information of my university,Tokyo University of Foreigh Studies. I think I can be liaison officer to tell the system of studying in Russia in my university or our attempts.

## 4. Influence on your student life, career development

I raised my awareness for the leadership and knowledge because to discuss well, these two factors are deeply required. But I now feel that to demonstrate leadership, we need more knowledge (including language skills) than others. So, I now want to input many things and increase the knowledge like Japanese and Russian culture.

## 5. Others (free description)

I hope the relationship between those who participated in this forum lasts for long time, and personally I hope I can join in the next student forum took place in Moscow.

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Oki Takeuchi (Kobe University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

\*I hope I could accomplish playing a role as an adviser knowing the real situation of Russia.

2. Things you have learned through the Student Forum

\* What we have to do to improve students grass-roots relationship between Japan and Russia, particularly, how can we spread and share both side information, for example, about the exchange program.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

\* Unfortunately, the number of participant from west Japan was absolutly insufficient, so I decided to play a role to recrute other students interested in our activity who studies in a university, where Russian language is taught as a professional or second language. It is clear that the most definetly important thing is recruiting.

\* Moreover, at least in Kansai, I know, there are potentially some students hoping to join somekind of activity intended to develop the two-countries relationship. Therefore, I want not only to share, but also to spread information about our activities so as to find new participant.

(These roles that I want to play has been approved at our working group.)

4. Influence on your student life, career development

\* It was very grateful that I found some co-workers who concerns poor grass-roots relationship between both countries and wants to develop it.

5. Others (free description)

When the next one will takes place in Moscow, it seems that it has to be extend the length of event to discuss more deeply.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Ayano Omura (Sophia University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Contents of the Student Forum are discussing our problems and giving presentation.

My role in the forum is giving information of Japanese systems. For example, Japanese educational system and students' job.

2. Things you have learned through the Student Forum

I learned Russian problems and culture.

We discussed these things compared Japanese culture.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

The main role is friendship between Japan and Russia.

I want keeping this connection and expanding.

4. Influence on your student life, career development

I understand my weakpoint, shy and lack of knowledge, so I want improve my skills.

5. Others (free description)

It was so exciting forum. Thank you for everything.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Hiroki Ueda (Tokyo Institute of Technology)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Students from both of Japan and Russia were divided into 5 groups and discussed about differences and common issues of both countries. Later the 2 representatives including me from each 5 groups started to prepare the presentation scheduled on the next day. In the discussion about the presentation, I tried to make the presentation as simple as possible and made figures to show the concept of Student Union.

2. Things you have learned through the Student Forum

Through this forum, I learned what we can do for the promotion of Japan and Russia students exchange from the student's point of view.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

A Student Union will be a hub of information among universities, governments, and companies of Japan and Russia. It will strongly stimulate the interaction between both countries. As a member of Union, I would cooperate with university's foreign division to efficiently promote exchange program.

4. Influence on your student life, career development

The activity of this forum made me think that I could contribute the interaction of both countries. This experience encourages me to study in Russia much more.

5. Others (free description)



# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Bogomolova Vasilina (Irkutsk State university)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Separated into the groups, we tried to find the most actual aspects in bilateral relations of our countries. It was difficult without special preparation. But several of it we nevertheless have found. Later we proposed some ways to expand the exchange program by entering a home-stay variant living in a country while a studying.

2. Things you have learned through the Student Forum

- You shouldn't shy and be confused – feel free when make a mistakes in speech because your wrong thought could be reason to make right one for someone else;
- Not only nationality determines our character. All persons are individual – take into account it when get know with someone and respect his opinion.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

My scientific 'biography' wasn't impressive - obviously I'm worst researcher in the world. But I agreed when have gotten an invitation to take a part in such project as making of student forum. I knew that my role in this forum will be the smallest, but for me... I started to get know what is the real communication, I made a friends with some of guys and in my opinion it's the best way to reach our purpose – to become closer.

4. Influence on your student life, career development

I suppose it will be one of the main events in my life which will determine my future career. Communicated with people from different countries I understood my desire – to break down all obstacles on the way to build society without prejudices and falses. The best way to do it – to get know with language. Language is the heart of any people and their culture. This forum was for me one more reason to think about my specialty and profession. After this May's student meeting I decided to change historical degree to the translation program in the Institute of philology and foreign languages (ISU, Irkutsk). I hope that Japanese will be my second foreign language and I'll help Russians to love Japanese culture, language and it's history.

5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Nataliia Stoliar (Altai State University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I was a part of the student's group and we had a discussion student's committee and future role of every student who took part in this forum.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

I've learnt that cooperation between students from different countries is more important that I thought before. And now I got a lot of motivation and new contacts to develop my career.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

On this forum I wanted to discuss some problems between our countries: ecological, social, educational. And I had an opportunity to share my thoughts among other students.

## 4. Influence on your student life, career development

Now I became a part of the student's committee and have an opportunity to ask some scientific questions to my colleagues. I'll try develop a part of our organization at the Altai State University.

## 5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Danil Sokolov (Novosibirsk State University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

The thing is that every member of the isolated discussion teams could come up with a good idea or highlight an important problem and then leaders could summarize these points during making of the final presentation. I appreciate the experience of sharing my opinion, organizing a discussion and a brainstorm session inside my group where every member was active in some ways and despite initial difficulties we finally made a report that was good enough. But there was no time to cooperate a bit and decide how to represent these things and that's why there could be some misunderstanding.

2. Things you have learned through the Student Forum

I found out that there are plenty of Japanese people interested in Russia. On the other hand, it was a nice experience of working with the people who belong to a radically different culture. Also I talked in Japanese and English and these are also very beneficial things for me, as I rarely have this kind of language practice.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I didn't really know what to expect, but as a result I got kind of a friendly environment and nice people to cooperate with to try to help with deciding various contemporary problems. I've made some acquaintances (Japanese, and also Russians) and contributed to making a way to opening The Student Union.

4. Influence on your student life, career development

Speaking practice helped me a lot during my Japanese and English exams (which was extremely close to arriving home, I even hadn't some time to prepare) and also gave me some confidence in my skills. Also I realized the importance of ability to interact in a discussion.

## 5. Others (free description)

This forum was my first academic trip and my first trip abroad. It was also really enjoyable and useful because my university major is committed to Japan. I am sure that experience like that could help other students to develop some important skills.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Ilona Vasileva (Hokkaido University)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)  
I took part in the organisation before the forum (choosing the topic of the discussion), discussion in the groups (exchange of the ideas, making the presentation, presenting) and final presentation discussion during the forum.

2. Things you have learned through the Student Forum  
In my opinion, during the forum I have learnt the way of organisation of such events, improved my leader skills during discussion, focused on actual problems between Russia and Japan and possible solutions for them, improved my communication skills.

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)  
I can take part in the development of the Japan-Russia Student Union through taking part in the meetings and helping organising events in Hokkaido University.

4. Influence on your student life, career development  
Participating in the Forum can help me to improve with various skills: leader, communication and so on, as well as to acquire necessary knowledge concerning interaction between Russia and Japan, which I will be able to apply in my future job.

5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Alisa Vyacheslavova (Hokkaido University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

The student forum was dedicated to discussing the cultural peculiarities of Japan and Russia, as well as the exchange of experience in studying in Russia and Japan. My role was to participate in the discussion, as well as help in preparing the final report for presentation to rectors of Russian and Japanese universities.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

In Japan and Russia, there are many exchange student programs, which are often unknown to students. Also, for me it was a revelation that so many Japanese students know nothing about Russia or have knowledge based on stereotypes.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I would like to help in organizing Russian events for Japanese students in Japan. Also, I could help with creating of the website for the Student Union.

## 4. Influence on your student life, career development

To date, thanks to the student forum, I met a lot of interesting students both from Russia and from Japan, who are extremely interested in exchange programs and in sharing travel experiences in each of the countries.

## 5. Others (free description)

It seems to me that it would be extremely useful to hold similar student forums both in Japan and in Russia, as it allows students to influence on the exchange situation and to communicate with rectors of various universities in real time. I would like to express my gratitude and sincere gratitude to the organizers for the opportunity to participate in the student forum!



# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Anastasiia Paukaeva (Hokkaido University)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

During the excursion to Historical Village of Hokkaido at the beginning of the forum we could get to know each other better. After that we had a brief explanation of the student forum with Prof. Kato and were divided into 6 groups for discussion of issues of the relationship between Japan and Russia. Along our discussion we decided to focus on the microscale of the issues according our experience. For example many Japanese students tend to know about Russia and Russian culture only a few things, even though our countries neighbors. And the reason of that is a lack of the Russian cultural events and information in Japanese media about Russia. Our idea was to promote one of the fundamental issue that can assist to solve global one. And at the end of the first session we presented our ideas to other students. After the session we could rest for a while on the opening ceremony for students. Students of Hokkaido University prepared for us unique Japanese dance, we had a lot of fun. However after the reception 10 students that were selected for preparing final presentation, due to the tight schedule, we had to work for the final presentation till late night. During our discussion we focused our discussion on the student exchange between two countries and tried to figure out what kind of issues we faced during living abroad. We figure out free main issues. The first is lack of Information about exchange program, second is about lack of motivation to participate in these programs and the third is lack of communication between japanese and russian students. Thus our main solution was to establish platform where we can share our experience, culture and knowledge. To create the Japanese Russian Student Union and branches in each universities. Then 4 representors were selected for the final presentation. It was a good opportunity for us to have a short talk with Minister of the Education Yoshimasa Hayashi and President of Hokkaido University Nawa Toyoharu. After that meeting we had a final presentation and present our idea about Student Union to the Presidents of Japanese and Russian Universities and Minister of Education. Minister Yoshimasa Hayashi supported our idea of the student association and promise to assist towards the development. We believe it very good start for Student Union but just a first step.

### 2. Things you have learned through the Student Forum

I believe, It was one of the valuable and interesting experience in my life and one of the trigger toward personal self-development. The valuable it's because I have learned the way to talk in the "same" language with the people of different cultures and majors to understand them better. And interesting it's because I had such unique opportunity to get to know the people from different regions of Japan and Russia, to hear their stories about traveling and living abroad, their personal opinion about future relationship between Russia and Japan, their attitude to many things related to the daily life abroad. That gave me a chance to look at the same things from a different prospects. Thus my opinion about my culture and country itself has changed sufficiently.

## Anastasiia Paukaeva (Hokkaido University)

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I would like to continue our idea to establish Russian Japanese student association, because it's very important in the future relationship of two countries. Thus, we try to make some activity of the student union in Hokkaido University and at same time to keep in touch with students of other universities in Japan and Russia. Maybe my role in that union is to keep in touch with the student of other universities. At least to assist new Russian students, who study in Hokkaido University to adopt to the new environment.

## 4. Influence on your student life, career development

I used to think that this type of event where people of different majors and specially cultures try to come up with the one idea is not feasible and waste of time. But at the end of the forum I could feel how close we became to each other, that we all on the same side. And I believe this is the one of the way of cooperation between two countries.

I cannot say that it effected or will effect on my career. Hovewer it's a good point towards your development.

## 5. Others (free description)

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Viktoriia Antonenko (Hokkaido University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

We had two day schedule, which included group discussions concerning problems that facing Russian students who are planning to study in Japan or already studying there and vice versa. Also, we discussed structure and main goals of Student Union as a new born organization, mainly, in regards of help and support of foreign students of both countries. I participated in group discussion and was a representative of final presentation of my group in a first day. As a student of Hokkaido University, I was a volunteer in a committee for first day reception entertaining program. On a second day I took part in a group discussion concerning future development of Japan Russia Student Union and was a representative of my group explaining group position for other participants.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

I learned that despite growing cooperation between our countries in various spheres of activity, a lot of problems, concerning transmission of objective information about conditions of study, everyday life, etc. (as in Russia, so in Japan) are still exist. And complex system, which can help students to find any kind of information about exchange programs, study and work opportunities have not been established yet.

I realize that despite the fact that we have similar problems in our countries (recycling problem, credit card problem, etc.), way of solving this problem doesn't necessary be similar, sometimes it can be useful to use an experience of other countries.

I knew before that Russian students see a chance to study in Japan as a great opportunity for their future, but I realize that a lot of Japanese students want to study in Russia as well (but their main interest is a short term exchange programs, as far as I understand, due to fear of Russian severe conditions of everyday life, mostly).

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

For Hokkaido University branch of Student Union I can be a member of regular meetings, as a part of a team working on a structure of our organization, events calendar, etc.

I can be a member of commities which can organize cultural events, mini-conferences, meetings, promoting cooperation between two countries. Speaking Russian, I can communicate with Russian community in Sapporo (Hokkaido), asking them to be involved as a valanteers in our events.

As a member of Student Union and a student of Hokkaido University I can help Japanese students from my University to get access to Russian exchange programs ( give them some

## Viktoriia Antonenko (Hokkaido University)

materials, explain conditions and so on ). Moreover, I can help them to get to know Russian culture, and, hopefully, to interest them in opportunities to study abroad or use numerous resources of Hokkaido University to broaden their knowledge about Russia, thus, possible ways of integration this kind of knowledge in their study, career, etc.

4. Influence on your student life, career development

I hope that participating in creation of a new international organization can give me a valuable experience, which I can apply in my future career. I hope, that meeting new people as a member of organization will help me to make new connections which could help in my current research, future job hunting, etc.

5. Others (free description)

Difference in educational systems of two countries can become a problem for current students, as well as for people who are thinking about study abroad or continue to study abroad. For example, in Russia simultaneously with "bachelor"- "master" qualifications, "specialist" qualification exist as well. Fact, which can be confusing for foreign University. As a person with qualification "specialist" I'm facing this problem as well. I hope that it would be possible to use Student Union resources to assist in solving such kind of problems.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Anastasiia Shumova (Kobe City University of Foreign Studies)

1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Took part in Group Work and presentation of this work.

2. Things you have learned through the Student Forum

work in an international team

3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Spread of information. This forum has been attended by universities who have already experienced exchange students programs. It is important the Union to provide information for students who can't held such an invent at their universities. For this sake I write articles on internet sites related to Japanese language studying. I will describe in my articles the exchange program and the Union activities. Thus, I can spread the information about the forum in social networks

4. Influence on your student life, career development

This forum was important for me! I have never attended an international forum before. This helped me to understand from a new perspective the relationship between Russia and Japan. It will be very helpfull for my research!

5. Others (free description)



# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Nataliya Lashkevich (Kobe City University of Foreign Studies)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

In the first day of the Forum we went on an excursion to Historical Village of Hokkaido, where we could new a lot about Hokkaido's history and culture. After this we had a discussion and presentation time in the afternoon, and had a reception in the evening.

On the next day one group prepared for the presentation, another group in which was me had discussion about Student Association. After presentation was finally prepared two representatives presented it for participants of The 7th Japanese-Russian Forum of University Rectors and Japan's minister of education and Russian consul.

I participated in this forum because I Russian who living in Japan, and for me it is very important if our county have good relationships especially between students. Such students will create future and now we need help to meet each other and make good relations.

It was my first forum but I think that I did my best to be useful for this forum. During first discussion in small groups some students in my group didn't understand English well and some didn't understand Japanese well. As I understand Japanese, English and Russian I tried to interpret for all who didn't understand something during discussion. Of course when I didn't understand something all helped me too.

Also when discussion started nobody knows how to start it so I tried to lead the discussion because I have such Experience from my School.

I also tried to help to improve final presentation, giving some idea to people who were making it.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

There are a lot of things that I learned through the Student Forum. For example, I knew how people founding new organization. It was very good experience and I expect that it will help me in my future career.

I also could experience what a brainstorming good thing. When you are alone you cannot understand some merits or demerits of an issue. But when a lot of people are gathering and share different information and their personal experience they would understand more than if it will be only one person. So I think such group of people can accomplish something grate.

## Nataliya Lashkevich (Kobe City University of Foreign Studies)

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Now I want to strength Japan-Russia community in University level. I want to speak with professors how can we do it. May be we need to organize some events which would help to students from Russia and Japan to communicate.

## 4. Influence on your student life, career development

I think that founding The Student Union is a big step for improving relationships between two countries. I am very proud that I could participate in creating something important that would help people to communicate and improve themselves.

Also I think that I became more open to people, more confident in myself and in my English and communication skills.

It also made me fill that I can do something important that would help people so I was stimulated to do more useful things.

## 5. Others (free description)

I want to thank all people who organized the Student Forum and organizing the Japan-Russia Student Union. I think such thing is very important for improving relations between our country.

I also hope that I would be useful. And I will be happy to participate in such events in future too.

Thank you very much!

Lashkevich Nataliya

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Alla Misanova (Kobe City University of Foreign Studies)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

At the first day of the forum I participated in the group discussion concerning relations between Russia and Japan. Due to my experience as abroad student in Japan and my bachelor degree as an orientalist I have provided information about existing connections between our countries, point out difficulties students encounter while trying to go both Russia and Japan and also note the main points, basing on information gained from students of faculties connected to our countries, of the low level of communication and motivation of both sides. Also during the conversations I sometimes helped my groupmates to better understand each other by translating from Russian to Japanese and vice versa during the discussions and excursion than was held in the first day of the forum.

### 2. Things you have learned through the Student Forum

I have found out, that there are much more interest in Russia from Japanese side than I expected. But there are still many problems that do not allow our countries to interact fully and the main problem is lack of knowledge and good image of Russia among Japanese students.

### 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I don't know in particular what is in my power to do for the Student Union but I would wish to broaden relations between our country. I suppose I will be able to help in the fields of intercultural exchange and would wish to ad my support after I graduate from universuty.

### 4. Influence on your student life, career development

Participation in this forum made me think about my future muster course research and changing it's contents to compare situation in Japanese and Russian language so that might lead to the ways of better understanding and learning both of these languages. This forum's experience has also helped me to rise my confidence in interpreting skills and consider this as one of the opportunities to use my knowledge directly and this way to help our countries to connect.

### 5. Others (free description)

This was my first experience in participating in such kind of event and I am very glad that I was able to take part in this forum. I was happy to know that there is a common interest not only between Russian students to Japan, but also in Japanese students to Russia. I hope that this interest will live on as we keep in contact to each other and to those who will participate in this forum in the future.

## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Svetlana Platnitskaia (Niigata University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

The program was dedicated to the development of student associations. The aim of the event was to consolidate the best practices on the activation and involvement of students in resolving the issues of improving the quality of Russian-Japanese partnership at the student level. An important part of the program was the speech of the Minister of Education of Japan, which shows the great importance of the student forum.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

The forum consisted of two parts: a discussion and a cultural program. We had a lot of group work, and it was very interesting to go through the process of discussing, analyzing and sharing the results in the group, as well as with the teachers. The main problem is that Japanese peoples know little information about Russia and its traditions. Therefore, we discussed how to improve the receipt of information about Russia, what cultural activities will be carried out.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Particular importance for the development of close partnership relations between Russia and Japan has cooperation in the humanitarian sphere, cultural, scientific and educational exchanges. The creation of a student union can help realize these tasks.

## 4. Influence on your student life, career development

Communication of participants of the program occurred with native speakers of the language, which is important. Experience of intercultural communication, a deeper acquaintance with the culture and education system, the opportunity to express themselves and their ideas.

## 5. Others (free description)

I am grateful to the organizers of the forum for the opportunity to participate in a wonderful place, Sapporo. Thank you for the warm atmosphere, I hope this will be the basis for further Russian-Japanese cooperation.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Sergei Anisimov (Niigata University)

### 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

Student Forum in Hokkaido provided a good platform to meet with students who are interested in communication and collaboration between our countries. I've met many Japanese students who were interested in Russian culture, and that was intriguing. We've participated in Brainstorm about different problems of student's life and its connection between Russia and Japan exchange. To solve some of troubles that students life face – we've discussed about possible structure of the Student Union.

At the forum, I've actively participated in discussion, participated in preparation of presentation for Minister Hayashi and I was chosen as a speaker.

It was an intense pleasure.

### 2. Things you have learned through the Student Forum

Hokkaido's miso ramen is very good

Many Japanese students who learned Russian can speak very well.

Both our countries can benefit from cultural and educational exchange a lot Ministry of Japan is ready to support student projects if we have active position, vision and strategy of what we need and what we want to do.

### 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

Provide connection between my hometown Medical University (Krasnoyarsk) and Niigata's Medical University with other cities of Student Union.

Organization of skype discussions.

Promote information about Japan to Russian students doing presentations and seminars.

### 4. Influence on your student life, career development

I've got a lot of motivation, so I can do my research projects faster 😊

I also got a lot of new friend which can help me in traveling around Japan.

### 5. Others (free description)



## Report on Japan-Russia Student Forum 2018

## Zgurskaia Elvira (Sakhalin State University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

This forum was held in the Crossed Year of Russia in Japan and Year of Japan in Russia. Main aims of this forum were discussion and understanding the situation of relations of our countries. We had to understand, how to help to development this relations and what can we do for it, just students, without help of University or Government. And is it possible to do in real life.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

When I asked Japanese students about their knowledge about Russia their answers were typical like “Vodka”, “The whole year is a continuous winter” and “Bears walking on the streets”. Part of this answers are true, I agree, but we cannot describe such big and different country by these tree phrases.

Also, when I asked how Japanese students knows any information about Russia, or which events are holds by this country in other parts of the world, they answered that they have no idea about it. Most of information which they received about Russia is connected to politics.

Also, Japanese people can't find many information about Russia even in Internet. One of the reason of it is the lack of info about this country in Japanese language. Actually, I was a little bit surprised, cause it seems like in Russia we have more possibilities to know about country with such interesting culture like Japan.

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

In the end of this program we decided to create a web-site, on which we will publish all possible information and interesting facts about Russia. We can provide Japanese students information about possibilities of internship in our region. Help Japanese students online, if they have any difficulties during their internship in Russia.

## 4. Influence on your student life, career development

I think this s very important part of History, in which we take a part and we are, students, really can and maybe we should to help to development of friendship of our countries. However, it's not so easy. We all still studies in our Universities and very busy our own businesses, but we need to find a time for business of our countries. For example, I have an opportunity to collect the information about Japanese-Sakhalin sister universities and possibilities of internship in Sakhalin State university, but most of these information is in Russian and translation takes much time. But I'll do my best to help in development of our web-site.

## 5. Others (free description)

In result of holding this forum we made a decision just to create a web-site. But I think it's not enough. Unfortunately, now I cannot to come up another way of solution some problems and aspects which we found out during this forum. Maybe to find a solution it could takes more time than only time which we spent in Forum.

# Report on Japan-Russia Student Forum 2018

Natalia Oshchepkova (Far Eastern Federal University)

## 1. Contents of the Student Forum and your role in the forum (your contributions in the program)

I was a member of Japan-Russia Student Forum.

We discussed how to improve relationship between Russia and Japan students. Our team make a conclusion, that Russians students are interested in studying in Japan, but Japanese students are not interested in studying in Russia, because they have little information about Russia.

Thats why we searched ways how to interest Japanese students.

## 2. Things you have learned through the Student Forum

- cooperation, membership

-important to listen everyone and make a common conclusion

## 3. Expected role in the Japan-Russia Student Union (Things you want to do, you can do)

I can be a member of the Student Union in the Far East, and help with the cultural program (acquaint with Russian culture, excursion etc)

## 4. Influence on your student life, career development

- for two days of the student forum I improved my English skills

## 5. Others (free description)

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成26年度採択校)

構想名	日露間における新価値創造人材の育成
大学名	東北大学
担当部署	総務企画部国際交流課連携推進係
コンタクト先	E-mail: kokusai-r@grp.tohoku.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

グローバルな視点から日露両国間交流の意義と重要性を深く理解し、全球的観点で日露間の新たな価値を創造できる指導的人材を育成する目的で、本学と関係が深いロシアの特別大学である「モスクワ国立大学(MSU)」及び「ノボシビルスク国立大学(NSU)+ロシア科学アカデミーシベリア支部(SB RAS)」、「極東連邦大学(FEFU)+ロシア科学アカデミー極東支部(FEB RAS)」を交流組織として、①学部1・2年生を対象とした、相互の異文化理解を推進する短期学生交流、②学部3・4年生および博士課程前期学生を対象とした、単位取得を伴うプレ留学交流、③博士課程前期および後期学生を対象とした、日露で実施している高いレベルの共同研究を基盤とした大学院生の教育研究交流を実施し、これまで教育を中心としてきたロシアの大学、研究を中心としてきたロシア科学アカデミー(RAS)、また研究第一、門戸開放、実学尊重をモットーとする本学が三位一体となって段階的教育交流モデルを構築する。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学ではロシア側コンタクトパーソンとの連携を強化し、共通認識、相互理解を心がけた。</li> <li>・ロシアの大学（学士・修士課程）とRAS傘下研究所（修士・博士課程）における教育面での相互補完関係に着目し、両者と協力することで学生交流の推進を図った。</li> <li>・研究所を巻き込むことで、より専門性の高いカリキュラムを学生に提供した。</li> </ul>
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が留学しやすい環境整備のため、セメスター制に替えてクォーター制を導入した。</li> <li>・本学文学研究科心理学講座とMSU心理学部とのジョイントリー・スーパーバイズド・ディグリー(JSD)プログラム開発に際しては、単位の読み替えのため双方の授業科目内容を確認。JSDプログラムでのMSU博士学生受入れにあたっては、MSU側指導教員と協議の上、学生の研究テーマや履修科目を決定。教育の質および学生の成績は、本学における半年以上の指導内容、単位取得状況、論文の内容をもって指導教員ならびに受入機関で保証、認定する予定。</li> <li>・本学理学研究科ではNSUを海外連携機関として環境・地球科学国際共同大学院プログラムの開発を検討中。学生の質保証のためQE(Qualifying Examination)は面接を中心に実施する予定。</li> </ul>
プログラムの実施における特筆すべき成果	<p>学生派遣：異文化交流型の短期留学(学部1・2年生対象)を契機に、より長期の留学やロシア関連企業への就職を志す日本人学生が増加したことは、日露の懸け橋となる指導的人材育成を趣旨とする本プログラムの成果。</p> <p>学生受入：異文化交流型の短期留学および単位取得を伴う1年間の留学を経たMSU心理学部の学生が、2018年10月からJSDプログラムの博士課程の1年生として本学文学研究科心理学講座に在籍していることは段階的教育交流モデル構築の成果事例。</p> <p>共同研究を基盤とした交流：文化的、社会的環境・背景の異なる学生、研究者が現状の問題点や最先端の研究成果について直接議論することにより、新たな問題の捉え方や問題解決の方法を見出すことができた。共同研究やジョイントセミナーへの参加を通し、学生が早い段階から国際的アカデミーネットワークに加わる機会を提供することができた。</p>

危機管理への対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生は、学研災付帯海外留学保険への加入、たびレジへの登録、本学あるいは海外留学生安全対策協議会(JCSOS)が開催する危機管理セミナーの受講を必須としている。</li> <li>・ 緊急連絡網などを収録したセーフティー・ハンドブックの配布やロシアに特化した危機管理情報を提供することで渡航の心得から緊急事態への備えまで、危機管理の意識付けを徹底している。</li> <li>・ 危機管理ガイドライン作成検討会による指導、マニュアルの周知で留学生の受入れおよび学生派遣にかかる危機管理を教職員にも徹底している。</li> </ul>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MSU心理学部と、文学部・文学研究科が継続してJSDプログラムに特化した段階的プログラムを実施する。</li> <li>・ 本学において教育の国際化ならびに学生交流プログラムを全学的に企画・実施しているグローバルラーニングセンターと本学の学位プログラム推進機構がロシアとの交流プログラムについても引き続き実施する。</li> <li>・ 学生の留学機会を増やすため、留学プログラムを授業科目として設定するなど各部局での検討を予定している。</li> <li>・ 補助金の支援終了後は、学内財源および独自留学支援制度の活用、地域の財団法人との協力により学生交流を推進していく。</li> </ul>

#### 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成26年度採択校)

構想名	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム
大学名	筑波大学
担当部署	グローバル・コモンズ機構
コンタクト先	E-mail: tenkai@un.tsukuba.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

本プロジェクトは、日本とロシア語圏諸国の学生を対象として、自身の確固たる専門分野を持ちながら、日本とロシア語圏の社会・文化・習俗・歴史などに精通し、日本とロシア語圏諸国を舞台にビジネスなどの活動を自在に展開できるマルチリンガル能力と実務能力を兼ね備えたグローバル人材の養成を目指すCertificate Programである。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<p>【進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年4月よりモスクワ市立教育大学にリエゾンデスクを設置。ミソチコ・グリゴリー准教授が筑波大学国際交流コーディネーターとして、ロシア国内の大学との連絡調整や学生指導等の業務を行っている。</li> <li>・業務は基本的に順調に進んでいる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア出身のプログラム修了生の進路先に関する情報がなかなか上がってこない。</li> </ul> <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流コーディネーターのミソチコ・グリゴリー氏を通じてプログラム修了生の進路先情報の収集に努めている。</li> </ul>
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣学生の参加する海外研修や海外インターンシップの大半は、単位化ができる教育活動として行っている。また派遣学生が修得した成績の単位認定については、学内教育組織ごとに認定する体制を取っている。</li> <li>・受入学生の在籍大学での単位認定状況については、個別に認定する方法が存在するが、広範な単位認定のためには継続的な調整が必要である。</li> </ul>
プログラムの実施における特筆すべき成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価においてS評価を獲得。</li> <li>・平成26年度～30年度の間に、580名の学生派遣・受入を実施する見込みであり、交流人数の数値目標を確実に達成できる見通しである。</li> <li>・外部資金を獲得したことに伴い、プログラムの大半を自走化することができる。</li> </ul>
危機管理への対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外安全危機管理サービスを契約し、海外渡航の際に加入を義務付けている。</li> <li>・年数回、海外危機管理研修を実施している。</li> <li>・海外研修に際しては、事前に必ず海外危機管理研修を実施するとともに、現地でも到着直後に危機管理に関する研修を実施している。</li> </ul>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学として可能な範囲で日露大学協会の活動に積極的に貢献する。</li> <li>・「ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム(Ge-NISプログラム)」を「Ge-NISプログラム+（プラス）」という名称で継続する。具体的には、①「中央アジア・日本人材育成プロジェクト」と②「ロシア・日本人材育成プロジェクト」という二つのプロジェクトに分けて展開する。</li> <li>・2019年1月、日本財団による助成事業として「中央アジア・日本人材育成プロジェクト」が発足。後継事業として、中央アジア地域を対象とした活動を継続する。</li> <li>・本学において「大学の世界展開力強化事業」の補助金終了後の自走化に係る基本方針が決定。学内予算を計上する形で、ロシアを対象とした「ロシア・日本人材育成プロジェクト」を実施する。当該プロジェクトについても外部資金獲得を目指し、引き続き努力する。</li> </ul>

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

--



## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成26年度採択校)

構想名	自然科学と社会基盤学の連携による日露学生プログラム
大学名	東京大学
担当部署	経営企画部国際戦略課国際事業チーム
コンタクト先	E-mail: intl-project.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

東京大学理学系研究科・理学部の全専攻・学科と工学系研究科・工学部の社会基盤学専攻・社会基盤学科では、平成26年から「自然科学と社会基盤学の連携による日露学生交流プログラム（STEPS（Students and Researchers Exchange Program in Sciences））」を行っている。本プログラムでの交流を通じて、東京大学とロモノーソフ記念モスクワ国立大学及びサンクトペテルブルク国立大学との間で、基礎科学分野、社会基盤学分野及び関連する分野における学術交流を促進し、将来の教育・研究分野における連携の基盤を築くとともに、本学の学生がプログラムを活用し、国際的な視野を広げることにより、将来、日本とロシアの交流に貢献するだけでなく、グローバルに活躍するリーダーとなるよう育成を行うことも目指している。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	過去に構築したSTEPSオフィスと両大学との連絡体制に加え、本学教職員による両大学のSTEPS専任担当者や受入教員等の訪問により、連携上の課題は特に生じていない。その為、モスクワ大学の改組に伴う担当者変更後も、円滑に運営が行われている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	短期派遣・受入学生は、各自渡航期間及び活動内容を受入先と調整の上決定している為、特に学年歴の妨げになることはなく、カリキュラムも個々のニーズに沿ったものになっている。 長期派遣・受入学生の学位認定にはいたっていないが、サンクトペテルブルク大学マネジメントスクールとの間で行っている単位認定及び単位互換は、平成30年度も引き続き実施しており、2月中旬に帰国予定の受入学生については、帰国後に単位認定とその互換作業が行われ、単位取得が見込まれる。
プログラムの実施における特筆すべき成果	学生交流においては、派遣先教員と帰国後もコンタクトを続け、共同論文を発表した学生や、本プログラムで来日した学生が、文部科学省の奨学金を獲得し、平成30年9月より工学系社会基盤学専攻博士課程に入学した事例等が挙げられる。ロシアでの滞在を通じて海外での研究や生活に自信が付き、帰国後に他の海外派遣プログラムに応募する学生が見られ、学生の国際化に貢献している。 研究者交流においては、本プログラムが主催したシンポジウムへの参加やロシアへの訪問を契機に、自ら研究助成金を獲得し来日したケースや、モスクワ大学に所属して研究を行っている教員のケースに加えて、プログラム初期に来日した博士課程の学生が、その後モスクワ大学で研究者となり、平成30年度に来日した学生の指導教員としてプログラムへの参加に協力するケース等から日露交流の継続性が見てとれる。
危機管理への対策	これまで同様、派遣学生については複数回のガイダンスを開催し、現地での緊急連絡先や到着後の流れ等詳細な説明を行っている。1ヶ月間にわたる短期集中ロシア語講座では、渡航後すぐに役立つ実践的なロシア語が身につくようカリキュラムが組まれている。モスクワ大学では、STEPS専任担当者が学生の入寮手続きをサポートし、何かあったら連絡できるよう担当者の連絡先を学生に伝えている。サンクトペテルブルグ大学では、学生ボランティアシステム（バディプログラム）を活用している。このシステムを通じ、渡航前から学生同士が直接コンタクトをとり、現地到着以降支援を受けることができる。 受入学生については、来日前からビザ手続きや各種案内等の支援をロシア語及び英語で行い、来日時には日本での生活を円滑にスタートできるようガイダンスを開催している。日本滞在中は、STEPSオフィスと受入教員の研究室とで連絡体制を整備し、緊急時や災害時に備えている。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	補助金終了後は、理学部・理学系、工学部・工学系それぞれに学内で予算を確保し、学生交流事業を継続していく運びとなった。理学部・理学系については、既存の派遣・受入プログラムにロシア特別枠を設ける等体制を整える。工学部・工学系については、社会基盤学科・社会基盤学専攻に限定せず、全学科・専攻に門戸を開くことを見据えてサンクトペテルブルク大学マネジメントスクールとの覚書を締結した。また、新たに工学系分野に強い大学との提携も視野に入れている。

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

--

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成26年度採択校)

構想名	日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築
大学名	新潟大学
担当部署	学務部留学交流推進課
コンタクト先	E-mail: soumukokusai@adm.niigata-u.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

平成26年度に採択された本事業は、日露の架け橋となって両国の医療を発展させ、さらには世界の医学の進歩に資する「グローバル医療人」を育成することを目的とする。主に極東地域の医科大学を相手校とする。交流する学部学生・大学院生には、先端的な知識や技術に加えて、過疎地などで必要とされる地域医療を習得させる。また、多国籍の患者や医科学者と協調するための俯瞰的な視点を身につけさせる。プログラムは、医学部生を対象とした①「夏期医学生交流プログラム（双方向10日間）」および②「医学研究実習プログラム（派遣2ヶ月）」、そして大学院生を対象とした③「ダブルディグリープログラム（DDP）（受入）」と④「ダブルディグリーを伴わないレギュラーPhDプログラム（RPP）（双方向）」の4つを設定している。

本事業は、医学部内に設置する「統括センター」が運営・評価・管理を指揮する。教育の「質の保証」のため、本学・国外の各運営委員会、それらから構成される国際連携運営委員会と本学事務局が協働している。また、派遣・受入学生のために、事前のガイダンス、宿舍の確保、母国語での学習・生活支援など、万全のサポート体制を備えている。その他に、帰国後の交流やキャリアパスも積極的に支援している。

以上により交流のノウハウや信頼関係を積み上げて、それらを他の学部へ波及させるように努めている。本事業により日露間の「人材の循環」を加速させることで、我が国の医療のみならず産業の発展に貢献していくことを目指している。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	関係教職員が可能な限り直接会合を持ち、意思疎通を図るよう腐心しているが、ロシアは事務手続きなどに時間を要するため、書類の提出締切や回答期限には、二重、三重の締切日を設定して事業が滞ることのないようにしている。日常的には、統括センターをコンタクト先とし、些細な点でも日露間で連絡を取り合う体制を維持させていることで、情報共有や協同研究プロジェクトの提案など実質的な成果を挙げられている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	③「ダブルディグリープログラム（DDP）（受入）」では、選抜、単位の互換・認定、成績評価・学位授与を行う体制を本学側で整え、学位最終判定の場である公聴会には、ロシア側の運営委員会もネット回線で参加し、合否判定に関与することとしている。DDPでのみ単位互換を実施しており、ロシア側大学で取得した単位のうち、10単位以下を互換することとしている。一方で、4年間のプログラム期間中に、日露双方の大学で博士号を取得し、計2本の博士論文を発表することは、医学の分野においては、極めて難しい。特に、実験を伴う場合、十分なデータを取得するために必要とされる時間が圧倒的に不足するという問題も出てきている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	①日露の医学・医療格差により、日本人学生や教員のモチベーションが弱かったが、共同研究や大学院交流が進むことで、研究が促進する兆しが出てきた。 ②学部、大学院と多層的なプログラムを準備したことで、過去に本学に短期滞在した学生が学位取得のため長期留学を志すケースが散見されるようになった。人材の循環に直結している。本事業に先行して大学院に在籍していた学生が、帰国し、今年度より母校で教員の職に就き、後輩学生を指導している例もある。 ③市民公開講座を企画し、県内の一般市民にも事業を紹介したりロシア人留学生と交流する機会を創出したりしたことで、学外への広報活動や留学事業への理解促進につながられた。 ④留学を経験した学生が、後輩に経験を伝えるなどし、学生間で口コミによる情報共有がなされた。ロシア留学に関する肯定的な体験談を聞いた上で、ロシア留学を志す学生が見られた。また、日露学生の結束を高めようとし、プラットフォーム構築事業で進める「日露学生連盟」の立ち上げに自発的に参画する学生が現れた。 ⑤留学先のロシアでは、研究成果を英語でプレゼンテーションすることが求められ、将来、医師として国際舞台に立ち、国際医療人として活躍するための素地がつくられた。

危機管理への対策	<p>・事前支援・オリエンテーション — 統括センターが、渡航する本学学生全員に、コースの説明・ビザ申請支援・十分な安全情報の提供などを実施。出発前の情報収集やたびレジなどの登録など指導を徹底している。また、専門家を招いての危機管理セミナーを複数回開催している。</p> <p>・安全管理 — 渡航後は、学生と現地校教員の双方から「在籍確認書」を書面で提出してもらい、安全確認を徹底。渡航中にも統括センター員がメールや電話で常時相談を受け付けている。</p> <p>・日露緊急連絡網・24時間体制でのサポート — 相手大学と本学の教員、統括センターで「日露緊急連絡網」を構築し、24時間体制で渡航中の学生支援を可能とした。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	新潟県内の民間企業・銀行などから構成される地域医療コンソーシアムを形成し、県・市など行政からも支援や協力を受ける体制の構築を進めているところである。

#### 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成26年度採択校)

構想名	極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム
大学名	北海道大学
担当部署	学務部国際交流課
コンタクト先	E-mail: RJE-3@oia.hokudai.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

<p>本プログラムは、極東・北極圏を対象として、北海道大学とロシアの大学・研究機関において蓄積された環境、自然災害、民族・言語・文化等のフィールド研究による実績とそのネットワークに基づき、極東ロシアの基幹5大学と北海道大学の複数大学院、北海道や極東ロシアの自治体、産業界の代表などで構成されるコンソーシアム（East Russia-Japan Expert Education Consortium、以下RJE3コンソーシアム）を構築し、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組みである。</p> <p>座学だけでなく、フィールドワークや分野横断的な学びを含む教育カリキュラムを通じて、多文化理解力・コミュニケーション力・企画、創造力が身につく本プログラムにおける、初年度から今年度までの学生交流数は、派遣学生126名、受入学生132名となり、本プログラムを通じた日露の学生交流は活発化してきたと言える。</p>
---

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	ロシア側の参加大学の5大学には、それぞれリエゾンデスクを置き、本学セントラルオフィスと常にスムーズに連絡を取れる体制を整えている。また年に1度、本学で行われるサマースクール時期に「国際運営委員会」を開催し、各協定校のリエゾンデスクメンバーが集まり、本プログラムに対する意見交換の場を設けることにより、さらなる連携がとれている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	本プログラムは4段階（準備科目-基礎科目-専門科目-発展科目）の教育システムによって成り立っており、その履修した科目によって、基礎科目修了証と共同修了証の授与基準をつくり科目担当者による評価と、母校及び留学先の両方の指導教員による評価を行うことによって、成績の透明性と客観性を確保するとともに、日露間の評価の標準化を図っている。また夏に本学において行われる「国際運営委員会」にて、教育システム上問題となっている点があれば議論し、決定していくこととしている。また外部評価委員会を設置し、当プログラムの学習成果の評価や単位互換が公正に行われているか等を監視することとなっている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	本プログラムにおいて実施している太平洋国立大学との学生交流が発展し、北大工学院と先方の大学建築デザイン研究科の間でコチュテルプログラムを結ぶこととなった。これにより、本プログラムの学部生向けの準備科目や次の段階である基礎科目を履修した学生が、博士課程において双方の教員からの共同の指導が受けられることとなり、今年度1名の博士課程の学生が本プログラムに参加している。また今年度は本プログラムの「発展科目」におけるインターンシップが開始され、受入企業側からの寄附金によってロシア人学生の奨学金を付与した。
危機管理への対策	プログラム開始前には危機管理についてのオリエンテーションを行い、犯罪・事件、人災に巻き込まれないように注意喚起を行っている。また、本学はNPO法人海外留学生安全対策協議会（JCSOS）に加入しており、本プログラム参加学生についてもJ-TASへの加入を必須としている。また学生には危機管理マニュアルを配布し、出発前に海外生活の心得を熟読し、留学に対する危機管理に備えている。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	今までのプログラム実績によって、本プログラム内容は充実が図ることができている。このことは、学生に対して非常に意義と価値のあるプログラムであるといえるため、留学支援金が今までどおりなくても学生が積極的に参加することが期待できる。またプラットフォーム構築事業が始まることにより、同事業の主旨に沿った内容に本プログラムを発展させ、同時に実施することによって予算の捻出を図る。

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

同大学における事業のため、作業の合理化と日露交流のさらなる効果を目指し、連動できる部分については協力をして行う等、学内にて調整したい。
---



## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム
大学名	千葉大学
担当部署	学務部教育企画課
コンタクト先	E-mail: kyoki-kyokaikaku@chiba-u.jp , Tel: 043-290-3604

## 2. プロジェクト概要

極東ロシアにおいて食料や種苗生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業（高度施設園芸、植物工場）を理解でき、日露の共同事業に貢献できる人材育成を目的とし、大きく2つの領域でプログラムを実行する。第一は、未来農業の中心である「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」における環境制御、栽培技術・管理、デバイス開発に関するプログラムであり、第二は「太陽光利用型植物工場」と「人工光型植物工場」の生産領域の拡大、生産物管理、繁殖・育種、マーケティング、ライフサイクルアセスメント等に関するプログラムである。栽培や環境に関わる領域だけではなく、工学やマーケティングに関するプログラムを学び、極東地域における日露共同事業の柱の一つとされている、温室ビジネスにおいて多様な場面で活躍できる人材を育成する。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	細かい相談はロシア語が必須であり、特定の職員に負担が集中する傾向がある。連絡に携帯用通信アプリ・WhatsAppを取り入れており、迅速かつ細かい相談が可能となっている。今後、TV会議を導入予定である。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	カリキュラム、科目構成の抽出を行っており、今後、共同プログラムの設置の可否を含めて、共同授業の開講についての検討を進める予定である。 単位認定は既に行っており、今年度のプログラムでも、サハリン総合大学の10日間のプログラムで2単位を、沿海地方農業アカデミーの20日間のプログラムで4単位を認定した。また、8日間の派遣プログラムに参加した学生には、千葉大学で2単位を認定し、サハリン総合大学からは2単位を付与されている。参加学生にはそれぞれ派遣先の大学、あるいは受入大学（千葉大学）からプログラム修了証が授与されている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	NPO植物工場研究会と連携した研究会の開催により、プログラムの内容を多くの日本企業に紹介する事を進めている。2月1日にNPO植物工場研究会と共催で「日本における施設園芸技術開発の動向と極東ロシアとの連携の可能性」を開催した。沿海地方農業アカデミー、サハリン総合大学、極東農業大学、地方行政府、企業関係者などロシアから9名、国内企業等から160名強の参加があった。昨年度末の日本極東ロシア農業ビジネスフォーラムの開催後、日本企業の極東ロシアでの農業に関わる活動が開始され、プログラムとの連携の協議が始まった。
危機管理への対策	本プログラムに参加する学生には、事前指導を実施し、危機管理に関する注意を十分に促している。派遣プログラムでは、海外での滞在については細心の注意を払うように指導している。日本人学生には、学生教育研究災害傷害保険に入ることによって万が一の場合に対応できるようにしている。また、本学では平成23年度より、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社が運営する留学生危機管理サービスOSSMAに加入しており、原則として渡航する学生はこれに登録する。受入プログラムでは、学生は学生教育研究災害傷害保険に入ることによって万が一の場合に対応できるようにしている。また、本プログラム実施にあたっては、ISD（インターナショナル・サポート・デスク）が窓口となって緊急時の対応を行う体制をとっている。個別プログラム実施期間中は、教職員が帯同するために、十分に危機管理が行える環境である。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	補助金の交付期間中に、信頼関係を構築すると同時に、関係産業の企業との連携を進めたい。

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	「日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム」
大学名	東京外国語大学
担当部署	国際化拠点室
コンタクト先	E-mail: kokusai-kyoten@tufs.ac.jp, Tel: 042-330-5534

## 2. プロジェクト概要

言語力、ロシア及び日本に関する教養・知識、経済についての知見、交渉力・調整力を合わせもち、日露協力プランの第8項目「両国間の多層での人的交流の飛躍的拡大」に結び付く、多様な分野で活躍することが期待される高度な「日露ビジネス人材」を養成するために、ロシア6協定校（モスクワ大学、モスクワ国際関係大学、ロシア人文大学、高等経済学院、ベテルブルグ大学、極東連邦大学）と連携しつつ、①短期留学 ②長期留学 ③インターンシップからなる交流プログラムを実行し、各大学が行っている「ロシア関係」「日本関係」「実学的な経済関係」の教育をさらに強化する。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	各々のロシア協定校との交流窓口役を担っている本学のロシア関係教員、留学生課、国際化拠点室及びコーディネーターが連携しつつロシア側との調整を図っている。また、モスクワに現地コーディネーターを配置することで、現地でのインターンシップを円滑に実施することが可能となった。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	・「RJIプログラム」の整備：国際日本学、国際ロシア学、インターンシップの3つがセットになった本学独自のプログラムであり、本事業に参加する本学学生が履修を求められている科目・講座名、必要単位数が具体的に明示することにより、日露ビジネス人材を目指すうえで取り組むべき事柄を明確にしている。
プログラムの実施における特筆すべき成果	・短期留学生受け入れプログラムとして「日露ビジネスサマースクール」を新規に開講し、協定校から29名の留学生を迎えた。国際日本学の講義や企業研修に加え、約同数の本学学生と日露タンドム学習により互いに教え学びあうことで、全参加者より「他の人にもぜひ薦めたい」との高い評価を得た。 ・日露経済関係に関与している本学の卒業生を束ねる組織「TUFS日露ビジネスネットワーク」が十分に機能し、日露の学生へのロシア及び日本国内における十分な量と質のインターンシップの機会提供、本学において実学を教える講義開講が可能となった。
危機管理への対策	・大学独自の渡航情報システム「ただいま海外留学中」を導入し、学生の渡航情報を把握し、緊急時に迅速に対応できるようにしている。さらに、平成30年度から「危機管理サービス」も導入し、希望する学生は加入できる体制を整えている。 ・危機管理説明会やオリエンテーションの実施、オンライン教材による情報提供等。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	本事業での新たな取り組みを可能な限り継続していく。 ・TUFS日露ビジネスネットワークのサポートのもと、ロシア及び日本国内でのインターンシップの機会提供、実学教育関連の講座を続けていく。 ・本学学生、他教育機関（大学のみならず小中高含め）と留学生を介した交流、地方自治体などローカルコミュニティとの連携を深めていく。

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等



## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム
大学名	東京工業大学
担当部署	生命理工学コース、ライフエンジニアリングコース、原子核工学コース
コンタクト先	E-mail: ryu.kor3@jim.titech.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

世界に山積する問題、特に高齢者の健康や医療、化石燃料の枯渇、化石燃料使用による温暖化等の問題を解決するためには、最先端の科学技術が必要不可欠となっており、特に産業と連動する工学技術の発展は経済活動の活性化にも重要と考えられている。本事業では、健康・医療産業や原子力・エネルギー産業に資する中心的な科学技術である生命工学、医用工学、環境科学、原子核工学分野における日露間の産業発展に寄与できる若手技術系人材の育成を、東京工業大学がロシアのトップ大学と共同で実施することで、健康・医療産業や原子力・エネルギー産業をグローバルに先導できる人材を輩出する。具体的には、東京工業大学の学生を派遣する短期と長期のプログラム、ロシア側学生を受け入れる短期と長期のプログラム、並びに日露学生交流フォーラムを実施し、日露の工学分野での積極的な交流を推進する

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<p>本学のプログラムでは、毎年本学と相手先大学双方の教員・学生が参加する「日露学生交流フォーラム」を開催する。同時に3大学の運営教員が一同に会し、連携に関する密度の高い論議を実施している。また、ロシア国立原子力研究大学とは、定例では月に一度TVミーティングを実施している。課題としてはモスクワ大学（MSU）は、連携先はモスクワとプシナの2か所あり設備上TVミーティングが行いにくく、必要に応じた打合せ出張が必要となっている。</p>
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<p>単位互換については、ロシア側大学と検討中である。課題は、ロシア側の大学で英語開講講義が少ないことである。</p> <p>本学学生については本学修学規則に則り、派遣により取得できる科目については希望学生が履修届を提出し単位を認定している。成績評価は、派遣前のオリエンテーション、計画書の提出、また派遣中は引率教員による履修状況の実地確認、並びに派遣後の報告書やプレゼンテーションにより行っている。</p>
プログラムの実施における特筆すべき成果	<p>毎年開催される全露大学学生討論会「Biotournament」において、MSUが本学との連携に鑑み、今年度は本学学生参加の「1st International Biotournament」（英語による討論会）を企画実施した。本学学生はMSU学生と3つの混成チームで参加。事前準備でも相当量のMSU学生との論議が行われ、参加1チームが3位入賞を果たした。また今年度開始の長期派遣・受入では、各学生が研究室でじっくり一つのテーマに取り組んだ。その結果、MEPHI派遣の本学学生は派遣中の高い研究結果を出し、ロシアの学会で発表するに至った。</p>
危機管理への対策	<p>本学としては派遣前に学生への説明（ロシアの治安状況と行動留意点、たびレジへの登録、緊急時の連絡法＜領事館等への通報＞等）とともに、海外旅行保険、アイラックサポートへの加入を義務づけている。多国との学術交流を多く経験を有する教員等を中心にプログラム運営を行っているとともに、学生の派遣時期をなるべく同時期とし、ロシア滞在経験を有する特任教員が引率するとともに、現地における生活指導を実施している。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<p>世界展開力強化事業の運営に当たっては、採択された世界展開力強化事業の予算、並びに必要なに応じて本学予算により行う。また当該費用についてはロシア側での支出も踏まえ相手先大学と交渉している。なお、学生への奨学金については、本プログラム期間中及び終了後に長期留学生の受入を目指す、国費留学やロシア学生受入奨学金を有する企業に本学への奨学金適応認定を打診している</p>

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム
大学名	金沢大学
担当部署	国際部国際企画課国際化推進係
コンタクト先	E-mail: g-planning@adm.kanazawa-u.ac.jp

## 2. プロジェクト概要

本学とロシア側連携機関とのこれまでの研究者交流を学生交流へと展開し、専門知識に加え、異文化受容性、現状認識力、俯瞰的思考力、創造（想像）力、そして実践力を備えた、将来の日露関係を担う人材育成を行う。そのため、体系的で多層的な、質の保証された骨太の交流プログラムを構築し、学生交流の規模を抜本的に拡大するとともに、プログラムに地域住民・地域企業との交流を組み込むことで、将来的な地域間の「学術・文化・経済」交流への展開を図る。本事業を通じて、東洋と西洋を結ぶ「21世紀の知（価値）のロシアン・シルクロード」の実現を目指す。

下記4つの単位・学位取得型交流プログラムを構築する。文化交流プログラムでロシアに対する興味を促し、継続的なフォローアップを通じて、専門・大学院課程での研究ベースの交流プログラムへの参加を促す。

- ①文化交流プログラム（体験交流・単位取得型）：ロシア・日本に対する興味喚起を目的とした学士課程学生を主対象としたプログラム。
- ②基礎科学交流プログラム（学位・単位取得型）：低温物理学分野で、博士前期課程におけるダブル・ディグリー・プログラムと単位互換プログラムを実施。
- ③先端科学技術交流プログラム（企業人材育成・単位取得型）：実学的な分野である機械工学と情報科学、環境科学分野で、主に博士前期課程の学生を対象に、今後の地域間企業連携を見据えた、企業でのインターンシップ等を組み込む。
- ④先制医療交流プログラム（研究交流・単位取得型）：脳神経科学、予防医科学、がん医科学、循環医科学分野における博士課程の交流プログラムを実施。理化学研究所、カザン連邦大学と連携して、将来的には日露医学研究教育センターの開設を目指す。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	<p>■ロシア側のコンタクトパーソン ロシア側機関が、本学からの連絡に対し対応してくれない場合や、担当者が曖昧な場合があり、ロシア側機関とのコミュニケーションがスムーズに進まないことがある。各ロシア側機関に、日本側機関との連絡窓口（特に大学の世界展開力強化事業の担当者）がいるとよいと感じる。</p> <p>■日本人学生の派遣時期 学生の夏季休暇期間である8月は、日本人学生を一定期間派遣しやすいが、この時期はロシア側も休暇期間であり、対応してもらえない場合がある。そのため、個人的に付き合いのある教職員等、限られたスタッフのみの対応となる。また、寮も利用できず、ホテルでの滞在が必要となる。</p> <p>■医学分野での学生交流 博士課程の学生を対象としたプログラムを実施しているが、日本人学生は、日本での診療や研究のため、ロシアに数日しか滞在できない。一方、ロシア人学生には、日本での2週間程度のプログラムを提供している。派遣と受入れで、実施期間に不均衡が生じている。</p>
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<p>物理分野でのカザン連邦大学とのダブル・ディグリー・プログラムを2018年に開始した。カザン連邦大学の学生1名が2018年10月に入学し、2019年4月に渡日を予定している。</p>

プログラムの実施における特筆すべき成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度の学生交流の目標数が【派遣35名・受入れ17名】であったのに対し、実績は【派遣65名・受入れ37名】であった。</li> <li>・タタルスタン共和国の大統領が、石川県を訪れ、本学を訪問した。その後、ジェットロ金沢主催で、ロシア連邦タタルスタン共和国交流フォーラムが開催された。</li> <li>・モスクワ国立大学及びサンクトペテルブルク国立大学と、大学間交流協定を締結した。2019年度から、両大学との学生派遣／受入れを予定している。</li> <li>・サンクトペテルブルク国立大学との学術ジョイントシンポジウムを実施した。</li> </ul>
危機管理への対策	<p>本プログラムに参加する本学学生には、本学が指定する海外旅行保険及び危機管理サービスへの加入を義務付けるとともに、本学国際部が実施する海外危機管理オリエンテーションへの参加を義務付けている。さらにプログラム担当・引率担当教員に対して、海外危機管理セミナーを実施している。</p> <p>また、本プログラムに参加するロシアの大学の学生には、生活オリエンテーションを実施するとともに、民間危機管理サービス企業の提供するインパウンド・緊急対応支援サービスの導入を検討しているところである。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<p>■石川～ロシア大学交流コンソーシアムの構築</p> <p>最終的な目標は、地域間の「学術・文化・経済」交流の基盤とすべく、大学コンソーシアム石川とロシア大学コンソーシアムが連携した「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」を設立し、コンソーシアム間の学生交流を実現することである。事業実施期間中にロシアの複数地域と石川県さらには北陸の高等教育機関の間で重層的な交流の枠組みを構築し、補助期間終了後も組織的な交流を継続できる体制を整備する。</p> <p>■経費負担</p> <p>現在、派遣・受入れプログラムに参加する学生の航空券費用は、補助金から支出している。補助金終了後を見据え、本学が最も交流の多いカザン連邦大学とは、2019年度プログラムから、自大学の学生の航空券費用は、自大学で負担するよう交渉済である。他の連携大学にも、今後費用負担に関する交渉を行う予定である。また、企業でのインターンシップ実施に係る学生の滞在費等の支援について、各企業へ交渉している。</p>

#### 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

以前、ロシア側大学とコンタクトを取るにあたり、北海道大学から先方の担当者を紹介いただいたことがあり、大変助かった。HaRP本部で、機関別・分野別の日露交流担当窓口リストを作成いただく等、ネットワークシステム作りをしていただけると有難い。

## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業
大学名	長崎大学・福島県立医科大学
担当部署	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 学術・管理課（管理担当）
コンタクト先	E-mail: kei_med@ml.nagasaki-u.ac.jp, Tel: 095-819-7007

## 2. プロジェクト概要

本補助事業ではロシア及び日本が持つ放射線災害の経験，教育インフラを糾合し，両国のみならず世界において「放射線災害を含む大規模複合型災害を想定して，災害発生前の防災計画等から，発災期の緊急放射線被ばく医療を含む医療対応とクライシスコミュニケーション，その後の収束期から復興期におけるリスクコミュニケーションや保健活動などをはじめとする種々の災害対応等において，災害サイクルにに応じて対応できる人材」の育成を行う。具体的には，長崎大学，福島県立医科大学及び北西医科大学等間で学生を派遣・受入し，放射線防護学，再生医療学，リスクコミュニケーション学及び被ばく影響学といった分野の講義受講により単位の互換を行う。さらに長崎大学・川内村復興推進拠点及び福島県立医科大学において実習に参加する。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	本事業に参加する長崎大学，福島県立医科大学，ロシア連邦の北西医科大学，ベラルーシ共和国のベラルーシ医科大学，ゴメリ医科大学でカリキュラム委員会，学生交流委員会を構成し，各委員がネット会議等を通じて随時連絡調整を行うほか，各参加機関の学長，理事長よりなる運営会議を年一回開催し，各委員会の活動を審議し，今後の運営方針を決定する。
教育システム上の取り組み（学年歴，カリキュラム，学位認定，単位互換，単位認定，成績評価等，教育の質の保証に関する留意点，調整・取組状況）	<p>学生の派遣・受入の中心となる長崎大学大学院医歯薬学総合研究科災害・被ばく医療科学共同専攻では，本年度より海外留学生を対象に秋入学とし，ロシアのアカデミックイヤーとの相違をなくした。</p> <p>英語開講科目については集中講義により実施しているため，短期留学生の受入に対応可能であり，12月には北西医科大学より学生を受入れ，ICRP副委員長であるジャック・ロシヤール教授による「放射線防護学」（2単位）を共修した。</p> <p>1月には長崎・福島からの修士学生を北西医科大学へ派遣し，英語による「生物統計学」（2単位）を受講する。</p> <p>両科目は現地の担当教員により成績評価され，自国の科目に振り替え単位互換する。</p> <p>次年度は本年度に受入れた北西医科大学生が長崎大学・川内村復興推進拠点及び福島県立医科大学において実習を共修する予定である。また，TV会議システムを用いて遠隔講義を行い，単位互換できる科目を増やす予定としている。</p>
プログラムの実施における特筆すべき成果	<p>本年度より本格的な学生交流が始動し，北西医科大学より6名の学生を受入れ，長崎大学より8名・福島県立医科大学より2名の学生を北西医科大学へ派遣し，双方において単位互換を行うこととしている。ロシアの学生からは帰国後，長崎大学での講義について，好評だったとの報告を受けており，北西医科大学に本事業のメリットを実感してもらったことで，今後の本事業運営の大きな推進力を得た。</p> <p>1月には福島において年次コンソーシアム総会及び第1回外部評価委員会を開催した。コンソーシアム総会では事業の進捗状況を確認するとともに今後の事業運営について意見交換することができた。外部評価委員会では，事業の取組状況について，プログラムの構想，教育内容の観点等に関して第三者の立場から取組状況等を評価していただいたことで，改善点が明確になり，事業改善・推進に努めることができた。</p> <p>また，1月後半には修士学生の派遣に合わせて，長崎・福島の教員が北西医科大学を訪れ，現地学生に対してセミナーを行った。</p> <p>広報活動としては，災害・被ばく医療科学共同専攻のロシア語版ホームページの開設，同専攻のロシア語版パンフレットを各協力機関，ロシア語圏の大学，ロシアでの日本留学フェアへ配布するなど，積極的に広報を行った。</p>

危機管理への対策	<p>海外へ渡航する際は、渡航（旅行）情報管理を徹底するため海外渡航システムへ登録すること、海外旅行保険へ加入することを義務付けている。</p> <p>受入学生については、長崎大学に在籍する世界展開力強化事業のプログラム担当（専任）教員が生活面も含めサポートする体制を整えている。さらに北西医科大学から引率教員を招聘し、受入学生と公私にわたり同行し、生活面の監督も担う。</p> <p>派遣学生については、本事業の学生交流を担当しているロシア語が堪能な教員（長崎大学ベラルーシ拠点代表代行）が、渡航前の学生の疑問や不安に答え、生活面も含めたサポートを行う。</p> <p>有事の際には担当教員と本学の国際連携事業を担当するグローバル連携推進機構（国際企画課）が連携し、双方の責任者に連絡する体制を整えている。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<p>ダブル・ディグリー制度については、既存の大学院のカリキュラムと融合するため、実施大学において、全て英語での授業の受講や海外での修学を経験できる国際的なコースとして発展させることが考えられる。</p> <p>経費面については、渡航費については原則自費負担とするが、日本学生支援機構（JASSO）などの各種奨学金や本学独自の奨学金制度を活用し、できるだけ学生の負担軽減を図る。また、TV会議システムを活用することにより、自国に居ながらにして相手校の講義を受講できる科目を増やすことで、費用負担を最小限に抑え、継続して実施できる体制を整備する。</p>

#### 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

「学生に直接的な金銭等を給付できない」という規程は支払処理を煩雑化させているように思われる。留学先で不測の事態により支出する必要が発生しないとも限らず、柔軟な対応（例外的に学生の立替を認める等）を求めたい。



## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成 主に極東地域の経済発展を目的として
大学名	東海大学
担当部署	東海大学国際教育センター
コンタクト先	E-mail: tokai.russia@ml.u-tokai.ac.jp, Tel: 0463-58-1211 内線：2786（展開力担当）

## 2. プロジェクト概要

本学の過去50年に亘る学生交流を柱としたロシアとの交流実績を最大限に活用し、日露間の関係深化と経済発展に資する人材の育成を目的とする。日本とロシアの両国に共通する社会問題であり、2016年12月の日露首脳間で合意された経済協力項目に盛り込まれた「健康寿命の伸長」と「高いQOL（Quality of Life）を保つ健康長寿社会の創出」を担うライフケア人材を育成するのを目的とする。主な事業は以下のとおり。

- (1) 海外研修（2～4週間／双方向）：平成30年8月8日（水）～15日（水）に本学の海洋調査研修船「望星丸」を利用したウラジオストク航海を実施した。同様の航海は平成33年にも企画している。
- (2) 中期・長期交換留学（6/12ヵ月／双方向）：単位取得型、渡航前教育としての特別講義の履修を含む。
- (3) 健診人材実務者研修（3～6週間／双方向）：健診分野で学ぶ学生を対象に、ロシアでニーズの増す画像診断、健診センターにおける実習、関連施設への訪問など、医療機器メーカー、商社、医療・病院コンサルタント等との産学連携事業として研修を実施する。
- (4) ダブル・ディグリープログラム（学位取得型）：日露大学間で大学院レベルでの単位互換を可能とする仕組みを整備し、修士号のダブルディグリープログラムを確立する。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	ロシアとの交流において問題となり、且つ肝要なのは「コミュニケーション」であると考えている。各事業の実施において、パートナーとの連絡・調整は、出来る限り現場に足を運び、膝詰めで相談をするように努力している。また、本学学長と極東連邦大学総長が夫々の大学から名誉学位を授与されるなど、あらゆるレベルで必要な対話と交流を可能とする環境の醸成に努めている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年以内の在学である外国人留学生のために学部開講科目を取得できるように制度変更を行なった。</li> <li>・外国人留学生用のチューター制度の拡充を行なった。</li> <li>・既存科目の中からグローバル・プログラム科目群の選定を行ない、展開力プログラム参加者が受講出来る様にした。</li> <li>・2022年のカリキュラム変更を目標として、学部・学科レベルでのグローバル・プログラム教育について検討を開始した。</li> <li>・工学研究科の国際コース拡充の検討を開始した。</li> </ul>
プログラムの実施における特筆すべき成果	「平成30年度海外研修 ウラジオストク航海」には本学をはじめ北海道大学、新潟大学、近畿大学の学生（計64名）が参加し、望星丸に乗船して8日に北海道・留萌港を出港。10日にはウラジオストクからロシア・極東連邦大学、サハリン国立総合大学の学生（計39名）が加わり、各種ワークショップ、日露学生フォーラムなどに協働で取り組んだ。短い期間ではあるが、日露6大学全ての教員も乗船し非常に効果的かつ密度の高い交流を実現できた。
危機管理への対策	派遣・受入れについては、本学の通常の危機管理システムに加え、極東連邦大学日本オフィスと東海大学極東オフィスが相互のキャンパス内に開設されたことを受けて、双方の学生が日本とロシアに滞在する際に綿密なバックアップを担う体制を構築した。
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	展開力をエンジンとして、①2022年度のカリキュラム変更を目標とする全学的なグローバル・プログラム教育の実現、②大学院レベルにおけるダブル・ディグリープログラム構築に向けた単位互換制度の整備、③派遣留学プログラムの拡充、④外国人留学生にやさしい在留管理体制の実現を推進し、国際的に開かれた大学を目指す。

## 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

通常の留学生・研修者交換、シンポジウム開催等のプログラムに加えて、我々が調査研修船を利用して実施したような、短い期間であるが、より多くの日露の学生が集中的かつ効率的に交流出来る仕組みもあった方が良く考える。

また、各大学の採択プログラムの枠を超えた日露学生間の交流の場があったらさらに面白いと考える。



## 大学の世界展開力強化事業（ロシア）採択校 情報共有シート

## 1. 基本情報

(平成29年度採択校)

構想名	日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成
大学名	近畿大学
担当部署	インターナショナルセンター
コンタクト先	E-mail: isc@itp.kindai.ac.jp, Tel: 06-4307-3081

## 2. プロジェクト概要

大学間協定に基づく学生交流を実施

「日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」プログラムは日露間で事業展開するモノづくりを中心とした企業において製品開発プロジェクトを推進でき得る人材の養成を目的として、本学と学術交流協定を結ぶロシアの10大学との間で展開する教育プログラム。当該教育プログラムは①短期人材交流プログラム（2週間／双方向）、②交換留学プログラム（1セメスタ／双方向）、③学位プログラム（修士：2年、博士：3年／東大阪モノづくり専攻への受入のみ）の3層で構成され、これら全てにおいて企業での研修を実施している。②では、ロシア協定校と人材ニーズを十分に反映した協同教育の企画・運営を行い、協同教育プログラム委員会の設置等、単位互換・ジョイントディグリーの可能性を検討する。ロシアに留学する学生に対しては初等ロシア語教育、危機管理教育等の渡航前教育を十分に行い、ロシアからの受入学生には日本語・日本文化研修等を人材交流の一環として実施している。

## 3. プロジェクトへの取組状況

ロシア側大学との調整・連携上の課題及び工夫点	ロシア側大学との調整・連携を行うために、近畿大学日露人材育成プロジェクトオフィスを設置し、本学インターナショナルセンターおよび理工学部と連携して日本とロシアの学生の要望に即応できる十分な連絡体制を備えている。
教育システム上の取り組み（学年歴、カリキュラム、学位認定、単位互換、単位認定、成績評価等、教育の質の保証に関する留意点、調整・取組状況）	<p>交換留学プログラムおよび学位プログラムにおいて受講科目の単位認定が行われる。ロシア人学生には、「エンジニアリングデザイン実習」（12単位）「基礎ゼミ1」（2単位）「基礎ゼミ2」（2単位）「卒業研究ゼミナール」（1単位）が必修科目と位置付けられ、ルーブリックに基づいた単位の認定が行われ、質の保証が担保された17単位を下限とする履修プログラムとなっている。すなわち、ルーブリックに挙げたエンジニアリングデザイン能力の評価項目を高いレベルで達成するような教育指導が行われる。さらに両科目ともに、本学の学生と区別なく厳格な評価が行われる。また、ロシア人学生は個々に研究室に所属し、それぞれの専門に応じた課題の指導を教員より受ける。さらに、本学で開講されている留学生用の日本語科目、日本文化に関する科目も履修・受講。交換留学生一人ひとりに本学の大学院生を中心としたチューターを配し、履修指導、課題作成・提出等のサポートを実施。交換留学プログラムではインターナショナルセンターが理工学部からの単位認定報告を受け、プログラム修了書を発行、受講生に授与する。</p> <p>ロシアの経済情勢に精通した大学教員、モノづくり企業の技術者、他大学の教員等で構成される外部評価委員会を組織・開催し、ロシアの製造業のニーズ把握とともに、科目の質の客観評価を行っている。</p> <p>本学からの学生の留学においては、学内公募に応募してきた学生にロシアでの学修計画を提出させ、プログラム運営委員会が留学の是非を審査する。留学が認められた学生は、本学で渡航前教育と初等ロシア語科目、協定校で「プロジェクトマネジメント実習」（12単位）を受講し、帰国後に成果報告プレゼンテーションを行うことにより最終的な単位認定がなされる。</p>

プログラムの実施における特筆すべき成果	<p>平成30年3月に「キックオフシンポジウム」を2日間にわたり実施。本事業の交流実施7大学の代表団および「モノづくり」を共有するロシアの2大学から代表者が参加。今後の大学間交流の枠組みや本事業への取組について議論した。このキックオフシンポジウムには国内外から約600名の参加があった。とくに日本側からは世耕弘成経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣、ロシア側からゴロジェツ・オリガ副首相（ロシア教育問題担当）、オレシキン・マクシム経済発展大臣が参加し、講演ならびにパネルディスカッションを行なった。両国の閣僚がキックオフシンポジウムに参加したことで本学のプログラムのみならず、「世界展開力強化事業（ロシア）」を国内外に周知した。</p> <p>平成30年10月には「日露青年フォーラム2018」（主催・日露青年交流センター、ロシア青年人材センター、近畿大学）が開催され、日本とロシアの青年95名が参加した。</p> <p>平成30年度から理工学部および語学教育センターにそれぞれロシア語科目、ロシア事情講義「現代ロシアを読む」がスタートしたほか、本プログラムを実施するための科目「エンジニアリングデザイン実習」「基礎ゼミ1」「基礎ゼミ2」「卒業研究ゼミナール」「プロジェクトマネジメント実習」が理工学部に開設された。</p>
危機管理への対策	<p>【近畿大学海外リスク管理マニュアルの策定】</p> <p>本学では海外リスク管理マニュアルを策定し、本学の学生および教職員が留学、研修、出張等で海外渡航する際のリスク事案に対応するための指針を定めると同時に、リスク管理対策事務局を国際センター内に設置し、24時間対応している。</p> <p>【渡航前研修の一環として危機管理セミナーを実施】</p> <p>ロシア事情に詳しい本学教員が、短期・長期を問わず、ロシアに渡航する学生を対象に「ロシア事情講義」「危機管理セミナー」等を実施し、学生の危機管理・安全対策を促している。</p> <p>【旅行のプロによる危機管理セミナーを実施】</p> <p>とくに短期人材交流派遣プログラムには海外渡航に不慣れな1～2年生の参加が多いため、直前研修では、トヨタツーリスト社の協力を得て旅行に詳しい旅行代理店のプロを招き、渡航中の身の安全の確保、いざというときの対処法に関するセミナーを実施している。</p> <p>【安全保障輸出管理にかかわるセルフチェックシートを活用】</p> <p>安全保障輸出管理にかかわるセルフチェックシートを活用しながら、学生に安全保障輸出管理に関する説明を行い、理解を深めている。</p> <p>【安全保障貿易管理を行うためのe-ラーニングを実施】</p> <p>本学教職員が外為法を理解し、適切な安全保障管理を行うために、経済産業省が作成したe-ラーニングを活用している。そこで教職員が得た知識を学生・院生に還元し、適切な運用を心掛けている。</p>
補助金終了後を見据えた今後の展望・方向性	<p>本学は、国際化推進の基本戦略である「近畿大学国際化のビジョン」に基づき、地域発展と国際社会に貢献できる人材育成を目標にグローバル化を強力に推進している。そして、この目標を達成するための1つの事業として、本事業の教育プログラムが進められている。従って、補助期間終了後、本事業は既存事業との交流や発展的な融合等を行い、継続的な内容として実施できるシステムへと再構築される予定である。</p>

#### 4. プラットフォーム構築事業（HaRP）への要望等

日露経済協力・人的交流に資する  
人材育成プラットフォーム（HaRP）

<https://russia-platform.oia.hokudai.ac.jp/>